

Oracle® Hyperion Strategic Finance

Administrator's Guide

リリース 11.1.2.4.000

著作権情報

Oracle® Hyperion Strategic Finance Administrator's Guide, 11.1.2.4.000

Copyright © 1999, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	7
ドキュメントのフィードバック	8
第1章. アーキテクチャおよび管理の概要	9
アーキテクチャ	9
管理タスク	9
EPM Systemアプリケーション・サーバーの更新	10
第2章. ユーザー、グループおよびセキュリティの管理	11
Foundation Servicesのユーザーとグループの定義	11
タスクとアクセス権の割当て	11
デフォルトのセキュリティの拡張	12
高度なセキュリティ、権限付与および認証について	12
第3章. サーバー、ルール・セットおよびシナリオ・タイプの定義	15
サーバーの管理	15
接続の指定	15
ログオン	16
接続の選択と削除	16
データベースの選択	16
サーバーからの切断	16
アイテムの選択	16
ルール・セットの定義	17
全般オプションの指定	17
勘定科目オプションの指定	17
時間オプションの定義	18
時間式の作成	18
DefiningScenarioオプション	19
時間ルールへのシナリオ・タイプの追加	19
時間関数の使用	19
シナリオ・タイプの使用	24
シナリオ・タイプの定義	24
シナリオ・タイプの削除	24
サーバー設定の定義と転送	24
全般設定の定義	25
言語設定の定義	25
システム・イベント・ログ設定の定義	25
エンティティ・イベント・ログ設定の定義	26
電子メール設定の定義	26
高度なレジストリ・エントリ設定の定義	26
サーバー情報のインポートとエクスポート	27
外部ステージング・データベースへの接続の構成	28
サーバー権限の割当て	28
第4章. データベースの操作	29

データベースの管理	29
Strategic Financeクライアント・データベースの作成	29
連結ラベルからのデータベースの作成	30
データベースの切替え	30
データベースの削除	30
外部データベースへのエンティティのエクスポート	30
外部データベースへの接続	31
エクスポート・データベースの表	31
Essbaseへのエクスポート	34
拡張分析用のレポート・ユーティリティ	34
拡張分析の使用方法	34
拡張分析データベースに対するユーザー権限の許可	35
拡張分析表の作成	35
拡張分析ルール・セットの作成	36
オプション: 参照データベースとエンティティの作成	39
拡張分析のスター・スキーマ	39
EPMシステム製品との統合	48
要件	48
EssbaseおよびPlanningへのバッチ・エクスポートの自動化	48
FDMとの統合	49

第5章. エンティティおよびエンティティ・グループの管理 51

エンティティの管理	51
エンティティへのアクセス	51
エンティティの所有者の変更	51
エンティティのロックの解除	52
エンティティの手動エクスポート	52
拡張分析の手動エクスポート	52
アップグレード後のエンティティの変換	52
エンティティ・グループの管理	53
エンティティ・グループの追加	53
エンティティ・グループの編集	53
エンティティ・グループの削除	54
エンティティのチェックイン・ルールの設定とアーカイブの管理	54
エンティティのチェックイン・ルールの設定	54
エンティティ・アーカイブの管理	54

第6章. データベースとエンティティへのユーザーおよびグループ・アクセス権の指定 57

全般データベース・アクセス権の割当て	57
ユーザーおよびグループのアクセス権の割当て	57
全般データベース・オプションの割当て	58
データベース、エンティティおよびエンティティ・グループへのデフォルト・アクセス権の構成	58
デフォルト・アクセス権の割当て	58
エンティティ・アクセス権オプションの構成	59
勘定科目アクセス権オプションの構成	60
権限グループの追加	61
時間アクセス権オプションの構成	61

レポート・アクセス権オプションの構成	61
シナリオ・アクセス権オプションの構成	61
ディメンションのアクセス権オプションの構成	62
連結アクセス権オプションの構成	62
リファレンス・アクセス権オプションの構成	62
新規エンティティに対するデフォルト・アクセス権の構成	63
データベース、エンティティまたはエンティティ・グループへのユーザーおよびグループの追加	63
ユーザーの追加	64
データベース、エンティティ、またはエンティティ・グループへのユーザー・グループの追加	64
第7章. クライアント側の機能のアクティブ化と管理	65
エンティティ変更管理のアクティブ化と管理	65
エンティティ変更管理のアクティブ化	65
ECMDキュメントへのアクセス権の定義	66
ECMDキュメントへのユーザーの追加	66
ECMDキュメントへのユーザー・グループの追加	66
ECMDキュメントへのアクセス権の編集	66
ECMDキュメントの所有者の変更	67
ECMDキュメントのロックの解除	67
仮定変更マネージャのアクティブ化と管理	67
仮定変更マネージャのアクティブ化	68
ACMDキュメントに対するユーザーおよびグループの追加と削除	68
ACMDキュメント所有者の変更	68
ACMDキュメントのロックの解除	68
バッチ、マップ、サーバーのインポートまたはエクスポートの管理	68
EPM System製品のサーバーへの接続の管理	69
バッチの管理	69
マップの管理	70
第8章. ロック、ログ、トランザクションおよびセッションの管理	73
エンティティのロックの管理	73
トランザクションの管理	73
ログの管理	74
ユーザー・セッションの管理	74
イベント・ログの管理	74
付録A. サーバー・レジストリとデータベース・ディレクトリ構造	75
サーバー・レジストリ	75
EPM System Strategic Financeのサービス・レジストリ・パラメータ	75
HSFサービスのShared Servicesレジストリのパラメータ	76
HSFサーバーのレジストリ・パラメータ	77
ディレクトリおよびファイル	77
%EPM_ORACLE_HOME%\¥products¥hsf¥	77
%EPM_ORACLE_HOME%\¥Diagnostics¥Logs¥hsf	80
付録B. データのエクスポート	81
エクスポートについて	81

要件	81
SQL Serverデータベースの設定	81
Oracleデータベースの設定	82
Oracle Application Clustersの使用	83
SQL Serverのエクスポート・データベースの作成	84
エクスポート・データベースのアップグレード	84
Strategic Financeサーバーの構成	85
接続の作成	85
外部データベース接続の構成	85
付録C. データの移行	87
要件	87
物理的な移行の実行	87
エンティティの変換	87
付録D. トラブルシューティング	89
11.1.xアプリケーションのバックアップ	89
同じサーバー上の別のデータベースへのエンティティの移動	89
Strategic Finance Serverへのクライアント接続	89
Strategic Financeサービス診断の実行	90
サービスの起動および再起動	90
Windowsタスク・マネージャのサービスの確認	90
イベント ビューアでのメッセージの表示	91
サーバーのメモリー・エラーとエラー・ログ	91
用語集	93

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: epmdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

1

アーキテクチャおよび管理の概要

この項の内容:

アーキテクチャ	9
管理タスク	9
EPM Systemアプリケーション・サーバーの更新	10

アーキテクチャ

Oracle Hyperion Strategic Financeは、スタンドアロン・アプリケーションまたはクライアント・サーバー・システムとして使用できます。Strategic Financeクライアントを使用して、ローカルまたはStrategic Financeサーバーに格納できる財務モデル(エンティティ)を、ローカルで開発できます。Strategic Financeサーバーは、中央管理型のバージョン制御システムで、モデルとアーカイブ・データ間の財務上の統一性を強化するために使用できる、複数のデータベースもホストできます。また、Strategic Financeサーバーは、外部データベースとの間でのデータのインポート/エクスポートに使用可能なステージング・データベースをホストしたり、管理設定が含まれる管理ドキュメントを管理することもできます。ユーザーは、財務モデルに必要なStrategic Financeサーバー上のエンティティをチェックアウトし、Strategic Financeクライアントで開発した後、サーバーにチェックインします。

管理タスク

次のメニューまたはタスクを使用して、管理タスクを実行します

- **アクセス、データベース・オプション** - Shared Servicesで作成およびプロビジョニングするユーザーおよびグループをStrategic Financeに追加します。Strategic Financeのユーザーが実行できるデータベース固有のタスクを特定できます。
- **アクセス、デフォルトの編集** - Shared Servicesでプロビジョニングされるユーザーおよびグループを追加して、Strategic Financeで実行可能なシナリオの追加、連結の実行などのタスクを指定します。



注:

既存のユーザー・ディレクトリまたはサポートされている認証プロバイダの使用の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemセキュリティ管理ガイド』を参照してください

- **データベース** - Strategic Financeデータベースの作成、アクセス権の割当ておよび管理を行います

- エンティティ - 選択したデータベースのエンティティを表示し、ユーザーにエンティティへのアクセス権を割り当てます
- エンティティ・グループ - 一括管理に使用するエンティティ・グループを作成および管理します
- **ECM** - 使用可能な場合、エンティティ変更管理ドキュメントを表示するために使用します。[58ページのデータベース、エンティティおよびエンティティ・グループへのデフォルト・アクセス権の構成](#)を参照してください。
- ロック - ロックされているエンティティ、および各エンティティで作業しているユーザーを特定し、必要に応じてロックを解除します。
- バッチ - 使用可能な場合、他のOracle Enterprise Performance Management System製品との間でデータのインポートやエクスポートを行うバッチ・ファイルを管理します。[58ページのデータベース、エンティティおよびエンティティ・グループへのデフォルト・アクセス権の構成](#)を参照してください
- マップ - 使用可能な場合、他のEPM System製品からマップをインポートしたりこれらの製品へマップをエクスポートします。[58ページのデータベース、エンティティおよびエンティティ・グループへのデフォルト・アクセス権の構成](#)を参照してください
- トランザクション - サーバーのトランザクションを監視します。
- セッション - ユーザーが製品をどれぐらいの期間使用するかを監視します
- ログ - サーバーのアクションを監視します
- イベント・ログ - [74ページのイベント・ログの管理](#)で構成したサーバー・イベントを表示します

EPM Systemアプリケーション・サーバーの更新

このリリースにアップグレードした後に、データのインポートまたはエクスポートに使用されることがあるマップおよびバッチ内のOracle Hyperion Planningサーバーへの保管されている参照を更新します。また、アップグレードの一環として、Oracle Essbaseサーバー名の一括更新を実行することもできます。

▶ 保管されているサーバー参照を更新するには:

1. 『Oracle(R) Hyperion Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』に記載されている再ホストされたEssbaseサーバーへの参照の更新に関する項の手順を実行します。
2. Strategic Finance管理者を起動して、ログオンします。
3. 「サーバー」、**接続のアップグレード**の順に選択します。

Oracle Hyperion Strategic Finance Serverのすべての使用可能なバッチおよびマップが表示され、管理アプリケーションの現在のユーザーにチェックアウトされます。他のユーザーにチェックアウトされているマップおよびバッチは読取り専用です。

4. 「**接続タイプ**」から、マップおよびバッチをインポートまたはエクスポートする対象の製品を選択します。
5. 更新するマップおよびバッチ・ファイルを選択します。
6. **新規サーバー名**に、製品サーバーの名前を入力します。
7. 「**選択した項目の更新**」をクリックします。選択したマップおよびバッチが更新されます。
8. 「**OK**」をクリックします。チェックアウトしたロックがすべて解除されます。

2

ユーザー、グループおよびセキュリティの管理

この項の内容:

Foundation Servicesのユーザーとグループの定義	11
タスクとアクセス権の割当て	11
デフォルトのセキュリティの拡張	12
高度なセキュリティ、権限付与および認証について	12

Foundation Servicesのユーザーとグループの定義

次のようにOracle Hyperion Shared ServicesでStrategic Financeを使用するユーザーとグループを作成およびプロビジョニングします:

1. 「スタート」、「プログラム」、「Oracle EPM System」、「Foundation Services」、「Shared Servicesの開始」の順に選択します。
2. 「アプリケーションの管理」で、ユーザー・ディレクトリ、「ネイティブ・ディレクトリ」、「ユーザー」または「グループ」の順に選択します。
3. 右クリックして「新規」を選択します。
4. 『Enterprise Performance Management Systemユーザーおよび役割セキュリティガイド』に示すように、ユーザーまたはグループ・アカウントを定義します。
5. 次に、ユーザーまたはグループを右クリックし、プロビジョニングを選択します。
6. 使用可能な行で、Strategic Financeを展開し、「基本ユーザー」、「インタラクティブ・ユーザー」または「管理者」役割を選択した役割に移動します。
7. 「保存」をクリックします。

詳細は、『Enterprise Performance Management Systemユーザーおよび役割セキュリティガイド』を参照してください。

タスクとアクセス権の割当て

Oracle Hyperion Foundation Servicesでユーザーとグループを作成した後、Strategic Financeに追加し、そのユーザーやグループが実行できるタスクを次のように指定します:

1. Strategic Finance管理者を起動します。
2. 「サーバー」、次に「開く」を選択してサーバーに接続します。
3. 「アクセス」、「データベース・オプション」の順に選択し、「ユーザーの追加」または「グループの追加」をクリックして、ユーザーまたはグループを参照します。

4. ユーザーまたはグループを選択し、「編集」をクリックして、そのユーザーやグループが実行できるデータベース関連のタスクを指定します:
5. 「編集」、「デフォルト」の順に選択して、ユーザーまたはグループを選択します。
6. 「編集」をクリックし、ユーザーが実行できるタスクを決定する権限を付与または拒否します:
7. 変更を保存します。



ヒント:

Strategic Finance管理者でShared Servicesを開くには、「表示」、次に「ユーザーおよびグループの管理」を選択します。

デフォルトのセキュリティの拡張

デフォルトのセキュリティを拡張するには:

1. データのエクスポートや拡張分析に使用するデータベースをインストールする際に、次のオプションを選択します:
 - Customer_Interface
 - db_owner
 - db_securityadmin
 - HSFSservice
 - public
2. HSFSserviceをさらに保護するには、「コントロール パネル」、「管理ツール」、「サービス」、「セキュリティの詳細設定」、「アクセス許可」の順に選択し、次のように割り当てます:
 - 親から継承可能な権限をこのオブジェクトとすべての子オブジェクトに伝播することを許可します。これらのオブジェクトとともにここで明示的に定義されたエントリが含まれます。
 - すべての子オブジェクトに対する権限エンティティを、子オブジェクトに適用する、ここに表示されたエンティティと置き換えます
3. Admin Doc (user.adm)をさらに保護するには、アクセスを必要最小限に制限します。

高度なセキュリティ、権限付与および認証について

次の操作の実行については、『Enterprise Performance Management Systemセキュリティ管理ガイド』を参照してください:

- SSLとシングル・サインオンの有効化
- Webサーバーの構成
- カスタム認証モジュールの使用

次の操作の実行については、『Enterprise Performance Management Systemユーザーおよび役割セキュリティガイド』を参照してください:

- ユーザー・ディレクトリの構成

- ネイティブ・ディレクトリの管理
- プロビジョニングの管理

3

サーバー、ルール・セットおよびシナリオ・タイプの定義

この項の内容:

サーバーの管理	15
ルール・セットの定義	17
シナリオ・タイプの使用	24
サーバー設定の定義と転送	24
外部ステージング・データベースへの接続の構成	28
サーバー権限の割当て	28

サーバーの管理

サブトピック

- 接続の指定
- ログオン
- 接続の選択と削除
- データベースの選択
- サーバーからの切断
- アイテムの選択

自身または他のユーザーが初めてStrategic Financeを使用するときは、サーバーを作成する必要があります。

接続の指定

▶ サーバー接続を作成または編集するには:

1. デスクトップで、「スタート」、「プログラム」、「Oracle EPM System」、「Strategic Finance」、「サーバー」、「サーバー管理者」の順に選択します。
2. 「サーバー」、次に「開く」を選択します。
3. 「...」をクリックします。
4. 次のタスクを実行します:
 - 「新規」のクリック - サーバーを作成します。
 - 編集 - 選択したサーバーを変更します。
5. 次を指定します:
 - ネットワーク上のサーバーのアドレス(IPまたはDNS) - サーバーのネットワーク・アドレス
 - プロトコル - プロトコル情報
 - ポート番号 - Strategic Financeサーバー・ポート

- このサーバー接続の名前 - 接続名
6. 「OK」をクリックします。
 7. 「サーバーの選択」で「OK」をクリックします。
 8. サーバーを選択して、「OK」をクリックします。

ログオン

- ▶ サーバーにログオンするには:
1. デスクトップで、「スタート」、「プログラム」、「Oracle EPM System」、「Strategic Finance」、「サーバー」、「サーバー管理者」の順に選択します。
 2. 「サーバー」、次に「開く」を選択します。
 3. 「サーバー」でサーバーを選択し、「OK」をクリックします:
 4. 起動時にこのサーバーに自動的にログオンする場合には、「デフォルトに設定」を選択します。
 5. 「OK」をクリックします。

接続の選択と削除

- ▶ サーバー接続を選択または削除するには:
1. デスクトップで、「スタート」、「プログラム」、「Oracle EPM System」、「Strategic Finance」、「サーバー」、「サーバー管理者」の順に選択します。
 2. サーバーを選択して、次のいずれかのアクションを実行します。
 - 「OK」のクリック - 選択したサーバーへのアクセス
 - 「削除」のクリック - 選択したサーバーの削除
 3. 「OK」をクリックします。

データベースの選択

- ▶ データベースを選択するには:
1. 次のタスクを実行します:
 - 管理者で、「サーバー」、「データベースの変更」の順に選択します。
 - [16ページのログオン](#)中にデータベースを選択します。
 2. 「データベースの選択」でデータベースを選択して「OK」をクリックします。

サーバーからの切断

管理者で、「サーバー」、「閉じる」の順に選択します。

アイテムの選択

「選択」ダイアログ・ボックスは、そのアクセス元に応じて様々なアイテムにアクセスします。

アイテムを選択するには、1つのアイテムを選択して「OK」をクリックします。

ルール・セットの定義

ルール・セットは、エクスポートに含めるシナリオ、勘定科目および期間を定義します。ルールはホストのXMLファイルで編集します。

- ▶ ルール・セットを定義するには:
 1. 「サーバー」、「ルール・セットの編集」の順に選択します。
 2. 次のタスクを実行します:
 - 「新規」のクリック - ルール・セットの作成
 - 「編集」のクリック - ルール・セットの変更
 3. 参照:
 - [17ページの勘定科目オプションの指定](#)
 - [17ページの全般オプションの指定](#)
 - [17ページの勘定科目オプションの指定](#)
 - [18ページの時間オプションの定義](#)
 - [19ページの時間ルールへのシナリオ・タイプの追加](#)
 - [19ページの時間関数の使用](#)

全般オプションの指定

- ▶ 全般オプションを指定するには:
 1. 「サーバー」、「ルール・セットの編集」の順に選択します。
 2. 「全般」を選択します。
 3. 「名前」で、一意の名前を指定します。
 4. 次のようなオプション選択を行います。
 - エンティティ作成時にエクスポートする - 新規エンティティをエクスポートします。
 - 削除時にクリーンアップする - エンティティをサーバーから削除した後、エクスポートからも削除します。
 - エラー発生時にクリーンアップする - エラーによる不完全な書込みを自動的に削除します。
 - 完了時にクリーンアップする - ステージング表からエクスポート・データベースヘデータを転送します。
 - 詳細モードで実行する - エラーを自動的に記録します。
 - 資金フローが不均衡な場合はエクスポートしない - モデルの資金が不均衡な場合はエクスポートを取り消します。
 - エクスポート時にシナリオを計算する - エクスポートされたシナリオを計算します。
 5. [17ページの全般オプションの指定](#)を参照してください。

勘定科目オプションの指定

- ▶ 勘定科目を選択するには:
 1. 「サーバー」、「ルール・セットの編集」の順に選択します。
 2. 「勘定科目」を選択し、次のオプション選択を行います。

- すべての勘定科目を送信する - エンティティ全体をエクスポートします。
 - リスト参照 - すべての勘定科目を表示します。
3. 「データベースの選択」でデータベースを選択し、「OK」をクリックします。
 4. 「エンティティの選択」でエンティティを選択し、「OK」をクリックします。
 5. 「期間勘定」で、勘定科目を選択して「>」をクリックし、ルール・セットに追加します。
 6. [17ページの勘定科目オプションの指定](#) を参照してください。

時間オプションの定義

▶ 時間オプションを選択するには:

1. 「サーバー」、「ルール・セットの編集」、「時間」の順に選択します。
2. オプション: 「追加」をクリックして、シナリオ・タイプを追加します。[19ページの時間ルールへのシナリオ・タイプの追加](#)を参照してください。
3. シナリオ・タイプを選択します。
4. 次のようなオプション設定を適用します。

- デフォルトの使用 - デフォルトの時間設定を使用します。
 - 時間コードまたは関数を使用して、「開始境界」および「終了境界」で、開始時間および終了時間を指定します。たとえば、エンティティが四半期の場合、時間コードはQ04(2004年の第一四半期)、2Q04、3Q04、4Q04のようになります。関数を使用する場合、たとえば、エンティティ全体をエクスポートするには、「開始境界」ボックスに「@firstpd」、「終了境界」ボックスに「@lastpd」と入力します。[19ページの時間関数の使用](#)を参照してください。
 - 集約のみで合成する - 期間をロールアップします。
 - 後続期間がある場合はエクスポートする - 後続期間を含めます。
 - 決算期間があればエクスポートする - 決算期間を含めます。
 - 取引期間があればエクスポートする - 取引期間を含めます。
5. 期間表で、含める期間を選択します。

期間がスケールに基づく場合は、次のような選択を行います。

- 次を含む - スケール
- 「期間の合成」 - ソース・エンティティに存在しないが、宛先エンティティに対して作成する必要がある期間を選択します。ソースとターゲットで時間のスケールが異なる場合は、既存の情報から欠落している期間に当てはめるスケールを選択します。たとえば、エンティティが月単位であるのに対し、週単位でエクスポートする必要がある場合、サーバーは月単位の情報に基づいて週単位の情報を合成します。
- 「期間累計」 - 期間累計情報を生成する期間を選択します。

期間累計情報がエンティティに存在しない場合、このオプションを選択すると情報が合成されます。たとえば、各週の期間累計を含めるエクスポートの場合は、「週」オプションを選択します。

時間式の作成

期間を参照するには時間式を作成します。たとえば、現年度および次年度のデータを参照するには、@basepdを使用します:

@basepd(+1(@year))

▶ 時間式を作成するには:

1. 「式」で、次を使用して式を定義します:
 - 演算子ボタン
 - 関数。19ページの[時間関数の使用](#)を参照してください。
 - 期間
2. 「OK」をクリックします。

Defining Scenario オプション

▶ シナリオ・オプションを指定するには:

1. 「サーバー」、「ルール・セットの編集」の順に選択します。
2. 「シナリオ」を選択します。
3. 「エクスポートするタイミング」で、シナリオをエクスポートするタイミングをエンティティに基づいて指定します:
 - 常時 - チェックインされるときにエクスポートします。
 - 監査ポイント - アーカイブされるときにエクスポートします。
4. 「OK」をクリックします。

時間ルールへのシナリオ・タイプの追加

▶ シナリオ・タイプをルール・セットに追加するには:

1. 「追加」をクリックします。
2. シナリオ・タイプを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

時間関数の使用

サブトピック

- @basepd
- @closing
- @deal
- @firstfore
- @firstpd
- @lastfore, vXXXX(@lastfore)
- @lasthist, vXXXX(@lasthist)
- @opening
- @period

時間関数を使用すると、開始境界と終了境界をルール・セットに指定できます。

@basepd

定義

基本期間。

戻り値

相対時間参照。基本期間内の勘定科目の値を戻します。

例

基本期間が2007年度の場合、

```
v1000(@basepd)
```

と記述すると、2007年度の「売上高」(v1000)勘定科目の値が戻されます。

@closing

定義

期末期間。

戻り値

対応する時間が参照され、その期末期間における勘定科目の値が戻されます。

例

次の計算式

```
v1000(@closing)
```

では、「売上高」(v1000)勘定科目の期末期間の値が戻されます。

@deal

定義

取引期間。

戻り値

対応する時間が参照され、その期末期間における勘定科目の値が戻されます。

例

次の計算式

```
v1000(@closing)
```

では、「売上高」(v1000)勘定科目の期末期間の値が戻されます。

@firstfore

定義

最初の予測期間。

戻り値

対応する時間が参照され、その最初の予測期間における勘定科目の値が戻されます。

例

売上高の最新の履歴値(例: 1999)が10で、その後の全期間における成長率が10%である場合に、売上高勘定科目について最初の予測期間の出力値を取得するには、次のように記述します。

```
v1000(@firstfore)
```

戻り値は11(10×1.1)または2000年度の売上高です。

@firstpd

定義

最初の期間。

戻り値

対応する時間が参照され、その最初の期間における勘定科目のモデルの値が取得されます。

例

モデルの最初の期間が2007年度の場合、次の計算式

`v1000(@firstpd)`

では、2007年度の「売上高」(v1000)勘定科目の値が戻されます。2007年度の期間の種別が四半期であれば、Strategic Financeの戻り値は2007年度の第1四半期の「売上高」(v1000)の値です。

@lastfore, vXXXX(@lastfore)

定義

最後の予想値。

戻り値

- ・ その勘定科目の最後の予測値。
- ・ その他の期間については「N/A」です。

例

計算式と値が次の場合、

`v1000(@lastfore)`

表1 @lastforeのサンプル値

V1000	1998H	1999H	2000F	2001F	2002F	2003F	2004F
販売	10	15	16.5	18.15	19.965	21.962	24.158

戻り値は2004年度の「24.158」で、その他の期間については「N/A」です。

@lasthist, vXXXX(@lasthist)

定義

最後の実績値。

戻り値

- ・ 最終履歴期間の数値。

- ・ 最終履歴期間よりも前の全期間については「N/A」。

例

計算式と値が次の場合、

v1000(@lasthist)

表2 @lasthistのサンプル値と式

V1000	1998H	1999H	2000F	2001F	2002F	2003F	2004F
販売	10	15	16.5	18.15	19.965	21.962	24.158

戻り値は1999年度の「15.000」で、1998年度およびその他の期間については「N/A」です。

@opening

定義

期首期間。

戻り値

その期首期間における勘定科目の値を取得する相対期間参照。期首期間には、期末期間と取引期間の数値が集約されます。たとえば、99年3月の取引期間については、Strategic Financeでは「99年3月: 期末」と「99年3月: 取引」という勘定科目が生成され、99年3月に集約されます。この場合は99年3月が期首期間です。

例

次の式:

v2000(@opening)

@period

定義

期間番号(最初の予測期間から始まる)。

この関数では、集約および入力列数がカウントされます。最後の実績期間の列番号はで、後続の各列の番号は1ずつ増分されます。

戻り値

TRUE - その期間の番号が@if関数に入力された番号と等しい場合。

例

```
@if(@period= 2, 1, 2)
```

2番目の予測時間の列に達した場合は1が戻されます。

シナリオ・タイプの使用

サブトピック

- ・ [シナリオ・タイプの定義](#)
- ・ [シナリオ・タイプの削除](#)

シナリオ・タイプはStrategic Financeサーバーで定義してから、クライアントにロードします。これにより、エンティティで一貫したシナリオが確実に実装されるようになります。

シナリオ・タイプの定義

- ▶ シナリオ・タイプを定義するには:
 1. 「サーバー」、次に「シナリオ・タイプ」を選択します。
 2. 「新規」または「編集」をクリックします。
 3. 名前を指定して、「OK」をクリックします。
 4. 「シナリオ・タイプ」で「OK」をクリックします。

シナリオ・タイプの削除

- ▶ シナリオ・タイプを削除するには:
 1. 「サーバー」、次に「シナリオ・タイプ」を選択します。
 2. タイプを選択します。
 3. 「削除」、「OK」の順に選択します。

サーバー設定の定義と転送

サブトピック

- ・ [全般設定の定義](#)
- ・ [言語設定の定義](#)
- ・ [システム・イベント・ログ設定の定義](#)
- ・ [エンティティ・イベント・ログ設定の定義](#)

- [電子メール設定の定義](#)
- [高度なレジストリ・エントリ設定の定義](#)
- [サーバー情報のインポートとエクスポート](#)

サーバーによってその中のすべてのデータベースを操作する方法は、「サーバー設定」で設定します。

全般設定の定義

▶ 全般のサーバー設定を定義するには:

1. 「サーバー」、「設定」、「全般」の順に選択します。
2. 次のようなオプション選択を行います。
 - デフォルト圧縮レベル - 圧縮設定
 - ユーザーの圧縮設定をクライアントに強制 - クライアントをサーバーの圧縮で上書き
 - デフォルトWindowsカラー・スキームの使用 - Microsoft Windowsカラー・スキームの使用
 - セキュリティ・メカニズム - いずれか:
 - 標準NTLM - スタンドアロンの実装の場合
 - 外部認証 - Shared Servicesとともに使用する場合
3. 「構成ファイル」でCSSバージョンを確認します。
4. オプション: 「言語設定」で、Strategic Financeコンポーネントの言語を次のように変更します。
 - 管理者 - 「参照」をクリックして、[25ページの言語設定の定義](#)を参照してください。
 - サーバー - 「参照」をクリックして、[25ページの言語設定の定義](#)を参照してください。

言語設定の定義

▶ 言語を変更するには:

1. 「サーバー」、次に「設定」を選択します。
2. 言語を選択します。
3. Strategic Financeを実行中に言語をインストールした場合は、「リフレッシュ」をクリックします。
4. 「OK」をクリックしてサーバーを再起動します。

システム・イベント・ログ設定の定義

ログに取得するデータを指定するには、システム・イベント・ログ設定を定義します。

▶ イベント・ログ設定を構成するには:

1. 「サーバー」、「設定」、「システム・イベント」の順に選択します。
2. 次のようなオプション選択を行います。
 - ログの保持日数の入力 - サーバー・イベント・ログを保持する日数(最大30日)
 - イベント・ロギングをオンにする - イベント・ログの有効化
 - アクセス - 記録対象のデータベース・アクティビティ:

- データベースの追加/削除 - 作成または削除
- アクセスの変更 - 変更
- 所有権の変更 - 所有権の変更
- ・システム活動 - ユーザー・ログインやライセンス変更などの、ログに記録するアクティビティ。

エンティティ・イベント・ログ設定の定義

ログに記録するエンティティ関連のアクティビティを指定するには、エンティティ・イベント・ログ設定を定義します。

▶ イベント・ログ設定を構成するには:

1. 「サーバー」、「設定」、「エンティティ・イベント」の順に選択します。
2. エンティティへの変更を追跡する「エンティティの変更」などの、記録する操作の種類を選択します。

電子メール設定の定義

データのエクスポートが成功したかどうかを電子メール送信するには、次の設定を使用します。

▶ 通知を構成するには:

1. 「サーバー」、「設定」、「電子メールの構成」の順に選択します。
2. 「SMTPサーバー」に、電子メール・サーバーのIPアドレスを入力します。
3. 「送信者電子メール・アドレス」に、宛先の電子メール・アドレスを入力します。
4. 「送信者名」に、電子メールの送信先となるユーザーの名前を入力します。
5. 最初の電子メールが配信されなかった場合の電子メール通知の送信方法を指定します:
 - ・ 電子メールのエラー時の再試行回数 - 後続の通知の回数
 - ・ 「電子メールのエラー時の再試行の頻度」 - 通知を送信する頻度
6. ユーザー名とパスワードが電子メール・サーバーから要求される場合は、「サーバーの認証が必要」を選択して、必要な資格証明を指定します。
7. ユーザー名またはパスワードを削除の選択を解除します

高度なレジストリ・エントリ設定の定義



注意

高度な設定を適用する場合は、モデルに悪影響を及ぼすことがあるため、事前にEPM System サポートに問い合わせることをお勧めします。

▶ レジストリ・エントリを定義するには:

1. 「サーバー」、「設定」、**拡張**の順に選択します。
2. オプション: 「ワーカー・プロセスの最大数」にMaxBackgroundWorkersレジストリの数を入力します。

データベースのエクスポート、サーバーの連結、エンティティ変更マネージャなどのランタイムの長いバックグラウンド・プロセスの同時実行で使用できるスロットを定義します。これらのプロセスの数

がMaxBackgroundWorkersを超えると、新しいプロセスは、BackgroundWorkerスロットが使用可能になるまでキューに入れられます。次の方程式を使用して、MaxBackgroundWorkersの設定を予想します。

- 主に連結を処理するサーバーの場合: (物理的なプロセッサの数) - 1
 - 主にデータベースのエクスポートを処理するサーバーの場合: 2 x (物理的なプロセッサの数)
3. オプション: 「要求集中時の最大数」に、MaximumIntensiveRequestsレジストリの数を入力します。

エンティティのチェックイン/チェックアウトなどの大きなファイルの処理に使用できるサーバー・スロットの数を定義します。これにより、サーバーでリソースを集約できるようにもなります。大きなファイルの処理数がMaximumIntensiveRequestsの数を超えると、ユーザーは、後でやり直すようにとのメッセージを受け取ります。次の計算を使用して、MaximumIntensiveRequestsを予想します。Max. Memoryは2048 MBです。

$(\text{Avg. file size} \times 2) / (\text{Max. memory} - 100 \text{ MB})$

4. 「最小の空きメモリ(KB単位)」で、HSFサービス用に指定されているメモリの最小容量を確認します。HSFサービスのバッファ・サイズは、仮想メモリ不足を防止します。
5. 「エラー・トレース・レベル」で、次の場所に記録される情報を決定するオプションを選択します。

%EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\HSFData\Admin\Default.log。

- 標準 - 何もなし
 - 情報 - ログ・アクション
 - エラー - ログ・エラー
6. 「直前に使用されたファイル・リストのサイズ」で、サーバーのメモリ内キャッシュで開いたままにするエンティティの数を指定します。この数を増やすと、直前に使用されたファイルのデータに速くアクセスできます。
7. 「アーカイブ警告レベル」で、アーカイブの修復を実行せずにアーカイブを保持する場合に、アーカイブのチェックを上書きする方法を指定します。
- サイレント - アーカイブのチェックを上書きして、非同期のアーカイブを有効にします。
 - 警告 - 非同期のアーカイブを有効にしますが、アーカイブが開かれたことは記録します。
 - ブロック - アーカイブの使用を防止します。
8. エンティティがStrategic Financeでの親の子である場合、親の参照はエンティティ表のEntityParentIDに格納されます。この属性がエクスポートでNULLであることが必要な場合は、「拡張分析でルートの子にNULLを挿入」を選択します。
9. 「データベースのエクスポート・パッケージ」で、データのエクスポートに使用されるHSFServiceまたはAlcarServiceを選択します。
10. 「最小の空きディスク・スペース(MB単位)」で、操作に必要な最小の空きディスク・スペースを確認します。
11. 「サーバーRPCポート番号」で、クライアント・サーバー通信で使用されるリモート・プロシージャ・コールのポートを確認します。
12. 「サーバーID」で、エンティティのチェックインおよびチェックアウトに使用される一意のサーバーIDを表示します。
13. 「現在のエンティティIDの最大値」で、すべてのエンティティの最大のエンティティIDを指定します。

サーバー情報のインポートとエクスポート

サーバー情報は、インポートとエクスポートを使用してサーバー間で転送します。エクスポートした情報は.xmlファイルに書き出されるため、そのファイルを別のサーバーにインポートできます。

- ▶ 情報をサーバー間で転送するには:

1. 次のタスクを実行します:
 - エクスポートする場合は、「サーバー」、次に「サーバー情報のエクスポート」を選択します。
 - インポートする場合は、「サーバー」、次に「サーバー情報のインポート」を選択します。
2. 「サーバー設定のエクスポート先」および「サーバー設定のインポート元」で、ファイル・パスと関連付けられた.xmlファイルを指定します。
3. 「OK」を2回クリックします。

外部ステージング・データベースへの接続の構成

ステージング・データベースに接続するためには、外部データベース接続を設定する必要があります。

- ▶ 外部接続設定を構成するには:
 1. 「サーバー」、「外部接続設定」の順に選択します。
 2. 接続タイプを選択します。
 3. 「OK」をクリックします。

サーバー権限の割当て

ユーザー・プリファレンスは、サーバーへのアクセス権を決定します。

- ▶ サーバーのユーザー・プリファレンスを指定するには:
 1. 「サーバー」、次に「ユーザー・プリファレンス」を選択します。
 2. ユーザーを選択または追加します。
 3. クライアントの「要約情報」ダイアログでユーザーがエンティティ情報を変更できるようにするには、「要約情報内のサーバー情報の編集」を選択します。
 4. クライアント上でユーザーがローカル・ファイルを開けるようにするには、「ALSファイルを開く」を選択します。
 5. 「閉じる」をクリックしてサーバーを再起動します。

4

データベースの操作

この項の内容:

データベースの管理	29
外部データベースへのエンティティのエクスポート	30
Essbaseへのエクスポート	34
EPMシステム製品との統合	48

モデルで使用するすべてのエンティティ、連結構造、ECMドキュメント、マップおよびバッチは、Strategic Finance サーバー上のデータベースに格納されます。ただし、次のようなデータベースを作成および使用してStrategic Financeデータを活用することもできます:

- データをより詳細に分析するためのEssbaseデータベース
- エクスポート・データベース
- 外部RDBMSデータベース

データベースの管理

サブトピック

- Strategic Financeクライアント・データベースの作成
- 連結ラベルからのデータベースの作成
- データベースの切替え
- データベースの削除

Strategic Financeクライアント・データベースの作成

Strategic Financeクライアント用のデータベースは、次の方法で作成できます:

- 空のデータベースの作成
- データベースのコピーおよび名前変更
- 連結ラベルの使用

▶ データベースを作成するには:

1. 管理者で、「データベース」を選択します。
2. 「データベース」、「追加」の順に選択します。
3. 一意の名前を入力します。
4. 「データベースの作成」で、方法を選択します。

- ・ 新規 - 空のデータベースを作成します。
 - ・ 既存のデータベースのコピー - 既存のデータベースを複製します。
5. 「OK」をクリックします。

連結ラベルからのデータベースの作成

Strategic Financeクライアントでの連結実行にラベルを付けた場合は、そのラベルのデータを変更したり、連結を再実行したりできません。ラベルに基づいてデータベースを作成するには、管理者を使用します。このラベルに基づくコピーを使用してデータを変更したり、連結を実行することができます。連結ラベルを作成するときに、このデータベースを作成して、連結変更の開始点として使用できます。

- ▶ ラベルからデータベースを作成するには:
1. 管理者で「データベース」を選択します。
 2. 「データベース」、「ラベルから作成」の順に選択します。
 3. 名前を入力します。
 4. 連結ラベルを選択します。
 5. 「取り込むアーカイブ」で、新しいデータベースに取り込む各エンティティのバージョン数を定義します。
 - ・ 現行バージョン - 最新のアーカイブのみを取り込みます。
 - ・ 最新のアーカイブ - アーカイブの数を指定します。
 - ・ すべてのアーカイブ - すべてを取り込みます。
 6. 「OK」をクリックします。

データベースの切替え

- ▶ データベースを切り替えるには:
1. 管理者で、「サーバー」、「データベースの変更」の順に選択します。
 2. データベースを選択します。
 3. これをデフォルトのデータベースとして指定する場合は、「デフォルトに設定」をクリックします。
 4. 「OK」をクリックします。

データベースの削除

- ▶ データベースを削除するには:
1. 管理者で、「データベース」を選択します。
 2. データベースを選択します。
 3. 「データベース」、「削除」の順に選択します。

外部データベースへのエンティティのエクスポート

外部データベースへエンティティをエクスポートする前に、必要なルール・セットを定義します。17ページのルール・セットの定義を参照してください。エクスポート可能なデータベース表の詳細は、31ページのエクスポート・データベースの表を参照してください。

Essbaseへの連結メタデータのエクスポートの詳細は、*Oracle Hyperion Strategic Financeユーザーガイド*を参照してください。

外部データベースへの接続

▶ 外部データベース接続を作成するには:

1. 管理者で「データベース」を選択します。
2. 「データベース」、「外部データベース」の順に選択します。
3. データベースを選択します。
4. 「接続タイプ」で、次のいずれかのオプションを選択します。

- エクスポート - Strategic Financeエクスポート・データが格納されるデータベースに接続します。
- インポート - インポートするデータが格納されるデータベースに接続します。
- 拡張分析 - 拡張分析(Essbase)データベースに接続します。

[36ページの拡張分析ルール・セットの作成](#)および [34ページのEssbaseへのエクスポート](#)を参照してください。

5. 「データ・ソース」で、拡張分析データベースのODBCデータ・ソース名または接続文字列を入力します。

表3 接続構文

データ ベース	接続文字列
SQL Server	Provider='SQLOLEDB';Server='{hostname}';Database='{Database name}';
Oracle	Provider='OraOLEDB.Oracle';Data Source='{SID}'; Provider='OraOLEDB.Oracle';Data Source='{database name}'; HOST='{hostname}'; 注: Initial Catalog変数は使用しないでください
IBM DB2	Provider='IBMDADB2';Database='{database name}';Hostname='{hostname}';Protocol=TCPIP; Port=50000;QUOTED_IDENTIFIER=off; Provider='IBMDADB2';Data Source='{database name}';Persist Security Info=True;QUOTED_IDENTIFIER=off;

6. 「ユーザーID」に、目的のデータベースのユーザー名または所有者を入力します。
7. 「パスワード」に、目的のデータベースのパスワードを入力します。
8. 「ルール・セット名」に、転送するルール・セットを入力します。
9. 「電子メール・アドレス」に、転送エラー・メッセージを送信する電子メール・アドレスを入力します。
10. 「データベース接続の使用可能」を選択して、データベース接続を使用可能にします。
11. 「OK」をクリックします。

エクスポート・データベースの表

サブトピック

- 使用可能な財務データ
- エンティティ・スカラー
- 変数および勘定科目情報
- 財務変数
- Alcrdtトランザクション

使用可能な財務データ

この表には、各トランザクションのヘッダー情報が保管され、ソース・エンティティおよびデータベースのデータが含まれます。

表4 使用可能な財務データ表

属性	データ型	定義
トランザクションID	bigint	トランザクションの識別子
チェックインしたユーザーのID	varchar	エンティティをサーバーにチェックインした最後のユーザー
使用可能なデータDt	datetime	使用可能なデータ
Alcar Db	varchar	ソースのStrategic Financeデータベース
エンティティID	int	エンティティの識別子
エンティティ名	varchar	エンティティの名前
予想されるレコード	int	表示されるレコード
トランザクションの状態コード	char	トランザクションの状態
トランザクション・エラー・コード	int	エラー
トランザクション・タイプ	char	トランザクション・タイプ
親トランザクションID	varchar	親エンティティに関連付けられたトランザクションID

エンティティ・スカラー

この表には、期間に関連付けられていないスカラー値が含まれます。

表5 エンティティ・スカラー表

属性	データ型	定義
トランザクションID	bigint	トランザクションの識別子
変数ID	bigint	変数の識別子
結果	varchar	変数が英数字の場合はデータ
結果の数値	decimal	値が数値の場合はデータ

変数および勘定科目情報

この表には、勘定科目データが含まれます。

表6 変数情報表

属性	データ型	定義
トランザクションID	bigint	トランザクションの識別子
変数ID	bigint	変数の識別子
変数の説明	varchar	変数の説明文
ネイティブ・データ型のコード	char	ネイティブ・データ型のコード
集約規則コード	char	集約規則のコード
アイテム・スケールのコード	char	スケールのコード
表示スケール	decimal	出力の表示スケール

財務変数

この表には、財務値が含まれ、各行にはStrategic Financeからエクスポートされた1つのセルが含まれます。

表7 財務変数表

属性	データ型	定義
トランザクションID	bigint	トランザクションの識別子
変数ID	bigint	変数の識別子
シナリオ名	varchar	エクスポートされる財務モデルのシナリオ
財務ファクトAlcrdt	varchar	財務ファクト
シナリオ・タイプの説明	varchar	シナリオの説明
結果	varchar	変数が英数字の場合はデータ
結果の数値	decimal	値が数値の場合はデータ

Alcrdtトランザクション

この表は、Strategic Financeの日付ラベルをカレンダーの日付に変換します。

表8 Alcrdtトランザクション表

属性	データ型	定義
トランザクションID	bigint	トランザクションの識別子
財務ファクトAlcrdt	varchar	財務ファクト
期間終了日のテキスト	datetime	期末

属性	データ型	定義
期間終了日のテキスト	varchar	Strategic Financeエンティティの期末
データ・ソース	char	データのソース

Essbaseへのエクスポート

外部Analyticsを使用し、その他のEPM System製品で使用するリレーショナル・データベースにエンティティ・グループをスター・スキーマとしてエクスポートします。これにより、次のようにデータを最大限に活用できます:

- EPM Systemモデルで使用可能な強力かつ多彩なレポート機能を使用できます。多くのEPM System製品は、スター・スキーマから直接レポートを作成できます。[34ページの拡張分析用のレポート・ユーティリティ](#)を参照してください。
- スター・スキーマ・データベースからOracle Essbase統合サービスのレポート機能を使用して、データをマルチディメンシjonal Essbaseデータベースに転送すると、Financial Reportingなどの他のEPM System製品がそこからレポートを作成できます。[34ページの拡張分析用のレポート・ユーティリティ](#)を参照してください。

Strategic Financeのレファレンス・データベースを作成し、複数のレポート用Strategic Financeデータベース内のエンティティを一元管理場所にコピーすることもできます。これらのエンティティは隔離されているため、財務モデル内の数を変更し、稼働データに影響を与えることなく分析できます。また、参照エンティティをリフレッシュできます。

拡張分析用のレポート・ユーティリティ

次のEPM System製品は、スター・スキーマ・サーバーとともに使用したり、Essbaseとともに使用できます:

表9 スター・スキーマおよびEssbaseをサポートしているEPM System製品

EPM System モジュール	リレーショナル・データベース (スター・スキーマ)	Essbase Oracle Essbase統合サービス
Oracle Hyperion Interactive Reporting	はい	いいえ
Oracle Smart View for Office	いいえ	はい
Oracle Hyperion Financial Reporting	いいえ	はい
Web Analysis	いいえ	はい

拡張分析の使用方法

- ▶ 拡張分析を使用するには:

1. オプション: 参照データベースを作成します。
[39ページのオプション: 参照データベースとエンティティの作成](#)を参照してください。
2. 空のリレーショナル・データベースを作成します。
3. Essbaseの外部データベース接続を作成します。[31ページの外部データベースへの接続](#)を参照してください。
4. 外部Essbaseデータベース(スター・スキーマ)を構成します。[35ページの拡張分析表の作成](#)を参照してください。
5. エクスポートする期間、勘定科目、全般情報を拡張分析のルール・セットで定義します。[36ページの拡張分析ルール・セットの作成](#)を参照してください。
6. エクスポートするエンティティを指定します。[39ページのオプション: 参照データベースとエンティティの作成](#)を参照してください。
7. オプション: リレーショナル・データベースからEssbaseへエクスポートします。

拡張分析データベースに対するユーザー権限の許可

拡張分析データベースのユーザーは、次の権限付きで構成する必要があります:

- * ALTER
- * SELECT
- * CREATE
- * UPDATE
- * INSERT
- * DELETE
- * CONNECT
- * (SQL Server) VIEW
- * (Oracle DB) RESOURCES
- * (Oracle DB) UNLIMITED TABLESPACE
- * (Oracle DB) DROP

これを実行するには、ユーザーをデータベースの役割に割り当てるか、個人権限の付与を行います。OracleDB用には管理者の役割を、SQL Server用にはdb_ownerをお勧めします。

拡張分析表の作成

▶ 拡張分析表を作成するには:

1. 「データベース」を選択します。
2. データベースをダブルクリックします。
3. 「データベース」、「拡張分析」の順に選択します。
4. 「エンティティ表のユーザー定義列」で、ユーザー定義列を作成します。

ユーザー定義ディメンション表を使用して、データ(クライアント定義フィールドの場合)またはStrategic Financeのスカラー勘定をフィルタ処理します。[43ページのUddim表1-4](#)を参照してください。

- ・「追加する列」に名前を入力します。
- ・「列のデータ型」で、データ型を選択します。

Strategic Financeの対応する勘定科目のデータ型と一致する必要があります。

- ・列を追加するには、「>」をクリックします。
 - ・列を除去するには、対象を選択して「<」をクリックします。
 - ・ユーザー定義列は20個まで指定できます。
 - ・ユーザー定義列は、スター・スキーマ・データベースのエンティティ表内にあります。詳しくは、[41ページのエンティティ表](#)を参照してください。
 - ・ユーザー定義列を作成した後、[37ページの勘定科目オプションの指定](#)に含まれるオプションで、ソースのStrategic Financeエンティティからスター・スキーマ・データベースに勘定科目をマップします。
5. ユーザーが連結メタデータをエクスポートできるようにするには、**EA連結表を使用可能にする**を選択します。
 6. 「表の作成」をクリックします。
 7. 「OK」をクリックします。

拡張分析ルール・セットの作成

エクスポートされるエンティティ・メタデータを指定するEssbaseルール・セットを定義します。

- ▶ 拡張分析のルール・セットを作成するには:
 1. 「データベース」を選択します。
 2. データベースをダブルクリックします。
 3. 「データベース」、「拡張分析」、「ルール・セット」の順に選択します。
 4. 参照:
 - ・ [36ページの全般オプションの指定](#)
 - ・ [37ページの勘定科目オプションの指定](#)
 - ・ [37ページの時間オプションの指定](#)
 - ・ [38ページのシナリオ・オプションの指定](#)
 - ・ [38ページのカスタム・ディメンションの指定](#)

全般オプションの指定

- ▶ 全般オプションを選択するには:
 1. 「ルール・セットの編集」にアクセスします。

[36ページの拡張分析ルール・セットの作成](#)を参照してください。
 2. 「全般」を選択します。
 3. エンティティが作成されたときにエンティティをエクスポートするには、「エンティティ作成時にエクスポートする」を選択します。
 4. 資金フローが不均衡な場合はエクスポートをブロックするには、「資金フローが不均衡な場合はエクスポートしない」を選択します。
 5. エクスポートする前にすべてのシナリオを計算するには、「エクスポート時にシナリオを計算する」を選択します。



注:

Strategic Financeクライアントで、「出力」タブの「すべての勘定科目の出力を保管」を使用するようにシナリオ・マネージャが構成されていない場合は、このオプションは必須です。

勘定科目オプションの指定

「勘定科目」タブを使用して、勘定科目表を定義します。詳細は、[39ページの拡張分析のスター・スキーマ](#)を参照してください。

▶ 勘定科目を選択するには:

1. 「ルール・セットの編集」にアクセスします。

[36ページの拡張分析ルール・セットの作成](#)を参照してください。

2. 「勘定科目」を選択します。
3. エンティティを参照します。
4. 勘定科目を追加するには、「期間勘定」で勘定科目を選択して、「>」をクリックします。
5. スター・スキーマ・データベースのユーザー定義列を、ソースのStrategic Financeのエンティティの値にマッピングします。

- 勘定科目を追加するには、「エンティティ・スカラー勘定」で勘定科目を選択して、「>」をクリックします。
- 「勘定科目ID」の各勘定科目に、「エンティティ表列のラベル」の対応するターゲット列名を入力します。
- これにより、Strategic Financeのエンティティのスカラー値が、[35ページの拡張分析表の作成](#)での任意の列にマッピングされます。
- このマッピングにより、スター・スキーマ・データベースのエンティティ表のカスタム列が入力されます。詳しくは、[41ページのエンティティ表](#)を参照してください。

時間オプションの指定

「時間」タブでは、時間表の入力期間を選択します。詳しくは、[39ページの拡張分析のスター・スキーマ](#)を参照してください。

▶ 期間を選択するには:

1. 「ルール・セットの編集」にアクセスします。

[36ページの拡張分析ルール・セットの作成](#)を参照してください。

2. 「時間」を選択します。
3. 次のいずれかのオプションを選択します。

- 「開始境界」と「終了境界」 - 開始時間と終了時間を入力します。

境界は時間コードを使用して設定できます。たとえば、エンティティが四半期の場合、時間コードはQ04(2004年の第一四半期)、2Q04、3Q04、4Q04のようになります。境界は関数を使用して設定できます。たとえば、エンティティ全体をエクスポートするには、「開始境界」ボックスに「@firstpd」、「終了境界」ボックスに「@lastpd」と入力します。[19ページの時間関数の使用](#)を参照してください。

- ・ 集約のみで合成する - 期間をロールアップします。たとえば、週を月にロールアップします。
- ・ 後続期間がある場合はエクスポートする - 後続期間を含めます。
- ・ 決算期間があればエクスポートする - 決算期間を含めます。
- ・ 取引期間があればエクスポートする - 取引期間を含めます。

4. 「期間」で、含める期間を選択します。

期間は次のスケールに基づきます。

- 「次を含む」で、期間のスケールを選択します。
- 次のいずれかのオプション設定を選択します。

- ・ 「期間の合成」 - ソース・エンティティに存在しないが、宛先エンティティに対して作成する必要がある期間を選択します。ソースとターゲットで時間のスケールが異なる場合は、既存の情報から欠落している期間に当てはめるスケールを選択します。
- ・ 「期間累計」 - 期間累計情報を生成する期間を選択します。期間累計情報がエンティティに存在しない場合、このオプションを選択すると情報が合成されます。たとえば、各週の期間累計を含めるエクスポートの場合は、「週」オプションを選択します。

シナリオ・オプションの指定

「シナリオ」タブでは、スター・スキーマ・データベースのシナリオ表に追加するシナリオを選択します。詳細は、[39ページの拡張分析のスター・スキーマ](#)を参照してください。

▶ シナリオを選択するには:

1. 「ルール・セットの編集」にアクセスします。

[36ページの拡張分析ルール・セットの作成](#)を参照してください。

2. 「シナリオ」を選択します。

3. 「シナリオ・タイプ」の各タイプについて、「エクスポートするタイミング」でシナリオをエクスポートするタイミングを指定します。



注:

詳しくは、[24ページのシナリオ・タイプの使用](#)を参照してください。

- ・ なし - エクスポートしません。
- ・ 常時 - エンティティのチェックイン時にエクスポートします。
- ・ 監査ポイント - 監査ポイントがアーカイブされるときにエクスポートします。

カスタム・ディメンションの指定

「カスタム・ディメンション」タブでは、スター・スキーマ・データベースのユーザー定義ディメンション表に移入するディメンションを割り当てます。詳細は、[39ページの拡張分析のスター・スキーマ](#)を参照してください。

▶ ディメンションを選択するには:

1. 「ルール・セットの編集」にアクセスします。
[36ページの拡張分析ルール・セットの作成](#)を参照してください。
2. 「カスタム・ディメンション」を選択します。
3. ディメンションの構造を入力します。次に例を示します。
 - ユーザー定義ディメンション1: 「製品」
 - ユーザー定義ディメンション2: 「地域」
 - ユーザー定義ディメンション3: 「区分」
 - ユーザー定義ディメンション4: 「チーム」

オプション: 参照データベースとエンティティの作成

元の本番データを分離してデータの整合性を保証するために、参照データベースを作成します。参照エンティティには本番エンティティへのリンクがあるので、本番データに合わせて参照エンティティをリフレッシュできます。

▶ 参照データベースとエンティティを作成するには:

1. 「データベース」を選択します。
2. データベースを作成します。
[29ページのStrategic Financeクライアント・データベースの作成](#)を参照してください。
3. 「データベース」で、目的のデータベースをダブルクリックします。
4. 「データベース」、「エンティティ参照」の順に選択します。
5. 「データベースの選択」で、ソース・データベースを選択します。
6. オプション: 「既存のエンティティ」で、エンティティを選択して「>」をクリックします。
7. オプション: 「既存のエンティティ・グループ」で、エンティティ・グループを選択して「>」をクリックします。
8. 次のいずれかの方法で、エンティティをリフレッシュします。
 - すべてのエンティティをリフレッシュするには、「すべてリフレッシュ」をクリックします。
 - 一部のエンティティまたはエンティティ・グループをリフレッシュするには、エンティティまたはエンティティ・グループを選択して、「選択項目をリフレッシュ」を選択します。
9. 「OK」をクリックします。

拡張分析のスター・スキーマ

サブトピック

- [ファクト表](#)
- [ヘッダー表](#)
- [分析表](#)
- [エンティティ表](#)
- [シナリオ表](#)
- [勘定科目表](#)
- [時間表](#)
- [Uddim表1-4](#)
- [トランザクション表](#)
- [分析表](#)
- [CN_GRP_Equity表](#)

- [CN_GRP_Blocked表](#)
- [CN_GRP_Elim表](#)
- [CN_ATTR_Parent表](#)
- [CNS_ATTR_Child表](#)
- [CN_Scenario表](#)
- [CN_Entity表](#)
- [CN_Structure](#)

拡張分析のために、Essbaseスター・スキーマ・データベースまたはサポートされているデータベースにエクスポートするデータは、次の項の表に示されます。

ファクト表

ファクト表は中央制御表で、他のすべての表と関連しています。Essbaseにマルチディメンショナル・データベースを作成および移入するために、他のスター・スキーマ表を調整します。ファクト表には、エクスポートされるデータが含まれます。各行は1つのデータ・セルで、遠隔表に保管されている名前が使用されています。

表10 ファクト表

属性	データ型	定義
AnalysisID	int	分析表を参照します
エンティティID	int	エンティティ表を参照します
シナリオID	int	シナリオ表を参照します
AccountID	int	勘定科目表を参照します
期間ID	int	期間表を参照します
UDDim1	int	ユーザー定義のディメンション表1を参照します
UDDim2	int	ユーザー定義のディメンション表2を参照します
UDDim3	int	ユーザー定義のディメンション表3を参照します
UDDim4	int	ユーザー定義のディメンション表4を参照します
DataValue	数値	数値を格納します
DataStringValue	nvarchar	文字列値を格納します

ヘッダー表

ヘッダー表は、エンティティおよびユーザー定義のディメンション表のヘッダー情報を保管します。

表11 ヘッダー表

属性	データ型	定義
HeaderID	int	特定のヘッダーを識別するキー

属性	データ型	定義
HeaderName	nvarchar	次のデータを保管します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0: ルール・セット名(データベース名) • 1-4: 各ユーザー定義ディメンションの名前を保管します。43ページのUddim表1-4を参照してください。
HeaderValue	nvarchar	ヘッダー文字列

分析表

分析表は、特定の分析を識別する情報を保管します。

表12 分析表

属性	データ型	定義
AnalysisID	int	特定の分析を識別するキー
AnalysisLabel	nvarchar	ラベル文字列

エンティティ表

Strategic Financeのソース・エンティティを識別します。

表13 エンティティ表

属性	データ型	定義
エンティティID	int	表内の特定のエンティティを識別するキー
EntityLabel	nvarchar	エンティティのラベルを格納する文字列
ServerID	nvarchar	エンティティが含まれているStrategic Financeサーバーを識別する文字列
データベース名	nvarchar	エンティティが含まれているソース・データベースを識別する文字列
EntityParentID	int	Strategic Financeデータベースの子エンティティの場合は、親エンティティを参照するキー
EntityParentLabel	nvarchar	親エンティティのラベルを格納する文字列
ユーザー定義列	varies ソース・エンティティと同じデータ型	この表は、それぞれ最大で20個までのカスタム列を保管します。

属性	データ型	定義
		<ul style="list-style-type: none"> 35ページの拡張分析表の作成を参照してください。 37ページの勘定科目オプションの指定を参照してください。

シナリオ表

エンティティ内のシナリオを識別します。

表14 シナリオ表

属性	データ型	定義
シナリオID	int	表内の特定のシナリオを識別するキー
ScenarioLabel	nvarchar	シナリオ名を格納する文字列
ScenarioType	nvarchar	シナリオの説明を格納する文字列

勘定科目表

エンティティ内の勘定科目を識別します。

表15 勘定科目表

属性	データ型	定義
AccountID	int	エンティティ内の特定のアカウントを識別するキー
AccountLabel	nvarchar	勘定科目名を含む文字列
NativeDataType	nvarchar	勘定科目に保管されるデータ型を示します 有効値: <ul style="list-style-type: none"> N - 数値 S - 文字列
AggregationRule	nvarchar	集約ルールを格納します 有効値: <ul style="list-style-type: none"> N 非勘定科目 B バランス F フロー勘定科目 A

属性	データ型	定義
		レート ・ D 割引レート ・ R - r 割合
AccountParentID	int	関連する勘定科目およびサブ勘定科目の場合、この特定の勘定科目が集約される勘定科目のキーを保管します。

時間表

エンティティ内で使用される期間を識別します。

表16 時間表

属性	データ型	定義
期間ID	int	特定の期間を識別するキー
TimeLabel	nvarchar	期間の文字列名
RealTime	datetime	期間がリアルタイムかどうかを示す値
TimeParentID	int	期間が別の期間に集約される場合は、集約する期間のキーを保管します。
TimeSiblingSortOrder	int	期間が兄弟の場合は、それらが属する順番を保管します。

Uddim表1-4

エンティティ内のユーザー定義のディメンションを識別します。

表17 Uddim表1-4

属性	データ型	定義
メンバーID	int	特定のディメンションの値を識別するキー
MemberLabel	nvarchar	ディメンションの値を格納する文字列
親ID	int	親ディメンション・キーの参照

トランザクション表

エクスポート状態にあるエンティティのトランザクションを識別する。

表18 トランザクション表

属性	データ型	定義
トランザクションID	int	特定のトランザクションを識別するキー。
HSFTransID	nvarchar	Strategic Financeのエキスポート・トランザクションのトランザクション数を識別する。
AnalysisID	int	分析表への参照。
ExportDate	int	エキスポート日。
HSFArchiveNumber	int	アーカイブ番号を保管する。
ユーザー名	nvarchar	トランザクションを実行したユーザーのユーザー名を保管する。
ServerID	nvarchar	ソースのStrategic Financeサーバーを識別する文字列。
データベース名	nvarchar	ソース・データベースを識別する文字列。
PushType	nvarchar	トランザクションのイベント・トリガーを識別する。集計の実行、エンティティのチェック・インなど。

分析表

分析表は、特定の分析を識別する情報を保管します。

表19 分析表

属性	データ型	定義
AnalysisID	int	特定の分析を識別するキー
AnalysisLabel	nvarchar	ラベル文字列

CN_GRP_Equity表

この表は、指定された親資本サブ勘定科目にロールアップされる資本サブ勘定科目グループを示しています。この表は、子の属性表にリンクされます。

表20 CN_GRP_Equity表

名前	タイプ	Null	キー	説明
ID	Integer	N	PK	
name	nvarchar (255)	N	-	資本勘定科目グループ名

名前	タイプ	Null	キー	説明
child_attr_id	Integer	N	FK	所有するCN_ATTR_CHILD行の外部キー

CN_GRP_Blocked表

この表の各行は、エンティティ・シナリオの親属性に定義されているブロッキング・グループを示しています。これらのグループは親にロールアップされない一連の勘定科目を定義しており、そのため、親は連結前の値を保持します。親エンティティでモデル化される仮定は勘定科目グループ別にブロックしてください。たとえば、債務と資本を連結レベルでモデル化するには、これらの勘定科目の勘定科目グループを親レベルで作成し、これをブロックします。ブロックしないと、子エンティティの勘定科目が連結され、親エンティティで入力されたデータが上書きされます。これはまた、子エンティティから累計できない税率、価格、資本コストなどの仮定にも使用できます。親属性で選択するブロッキング・グループには、システム定義またはユーザー定義の勘定科目グループがあります。

表21 CN_GRP_Blocked表

名前	タイプ	Null	キー	説明
ID	Integer	N	PK	
name	nvarchar (255)	N	-	ブロックするグループの名前
is_sys_grp	nchar(1)	N	-	グループがシステム定義かユーザー定義かを示します: 0 = No, 1 = Yes
parent_attr_id	Integer	NK	FK	所有するCN_ATTR_PARENT行の外部キー

CN_GRP_Elim表

この表の各行は、指定されたエンティティ・シナリオの親属性に定義された消去グループを示しています。これらのグループは、親レベルでは報告できない会社間勘定科目など、親にロールアップされない一連の勘定科目を定義します。

子の場合、消去する勘定科目グループは子エンティティに作成されます。たとえば、v1000が、子A、BおよびC内にあり、子AおよびBにのみ存在する「消去」という勘定科目グループに含まれ、子に基づく消去グループとして親属性内で選択されている場合、子AおよびBのv1000は消去されますが、子Cは連結されます。親の場合、親の消去勘定科目グループは親レベルで作成され、親属性内で選択されます。これらのグループ内のすべての勘定科目は、自動的に親レベルでゼロ設定されます。

表22 CN_GRP_Elim表

名前	タイプ	Null	キー	説明
ID	Integer	N	PK	
name	nvarchar (255)	N	-	消去するグループの名前
parent_attr_id	Integer	N	FK	所有するCN_ATTR_PARENT行の外部キー

CN_ATTR_Parent表

この表は、エンティティ・シナリオの親属性(該当する場合)、および親に対するロールアップのコントリビューションを示しています。連結のルート・エンティティは、シナリオ行の親属性を定義せず、この表にはエントリを持ちません。また、各行は、保持されていて親にロールアップされていない期間も示しています。この保持期間の設定は、期間によるブロックを定義し、連結の期間から除外された期間の入力を保持します。たとえば、子エンティティの連結が2007年に開始されたが、親に2005年と2006年のデータがあった場合、エクスポート時に保持期間を選択して、2005年と2006年のデータを保持します。

表23 CNS_ATTR_Parent表

名前	タイプ	Null	キー	説明
ID	Integer	N	PK	
preserve_pds	nchar(1)	N	-	親にロールアップされず、ゼロ設定されない期間。入力または出力が保持されます。[I](入力)、[O](出力)、[N](なし)
basis	nchar(1)	N	-	[C](子)、[P](親)

CNS_ATTR_Child表

この表の各行は、エンティティ・シナリオの子属性(該当する場合)、および親に対するロールアップのコントリビューションを示しています。連結のリーフ・エンティティは、シナリオ行の子属性を定義せず、この表にエントリを持ちます。表の各行は、ロールアップ、期間範囲、出資比率および資本サブ勘定科目に使用される連結メソッドも定義します

表24 CNS_ATTR_Child表

名前	タイプ	Null	キー	説明
ID	Integer	N	PK	
method	nchar(1)	N	-	シナリオ・ロールアップ・メソッド: [S](標準)、[C](原価)、[E](資本)、[I](少数株主持分)
percentage	float	N	-	親ロールアップに対するコントリビューション率
first_period	nvarchar(255)	N	-	
last_period	nvarchar(255)	N	-	
equity_subacct	nvarchar(255)	Y	-	

CN_Scenario表

この表には、連結内のエンティティのシナリオに関する情報が含まれます。この表は、エンティティのロールアップにシナリオが含まれているかどうかを示すとともに、子属性や親属性の外部キーなどの、参照用の外部キーを示してい

ます。連結のルート・エンティティはシナリオ行の親属性を定義しません。また、連結のリーフ・エンティティは、シナリオ行の子属性を定義せず、子ID FKとしてNULLを含みます

表25 CN_Scenario表

名前	タイプ	Null	キー	説明
ID	Integer	N	PK	
name	nchar(1)	N	-	シナリオの名前
parent scenario	float	Y	-	親シナリオの名前
excluded	nvarchar(1)	N	-	シナリオがエンティティのロールアップで使用されているかどうかを示します: 0 = No, 1 = Yes
parent_attribute_id	Integer	Y	FK	所有されるCN_ATTR_PARENT行の外部キー
child_attr_id	Integer	Y	FK	所有されるCN_ATTR_CHILD行の外部キー
entity_id	Integer	N	FK	所有するCN_ENTITY行の外部キー

CN_Entity表

この表には、連結階層の各エンティティの行が含まれます。階層のエンティティ間の親子関係は、parent_entity_id列の値によって示されます。この値が-1である場合、その行が階層のルートになります。連結内で別の親の下に同じエンティティが含まれる場合、2つの異なる行は、親ごとにエンティティが含まれることを示します。各行は、エンティティが連結に含まれているかどうかを示すとともに、エンティティが属する連結構造を参照する外部キーを示します。

表26 CN_Entity表

名前	タイプ	Null	キー	説明
ID	Integer	N	PK	
name	nchar(225)	N	-	エンティティの名前
excluded	nvarchar(1)	N	-	エンティティが連結に含まれているかどうかを示します: 0 = No, 1 = Yes
parent_entity_id	Integer	N	RK	親エンティティを表すCN_ENTITY表のID列
structure_id	Integer	N	FK	所有するCN_STRUCTURE行の外部キー

CN_Structure

この表には、基本となる、最上位の連結構造データが含まれます。各行は、CN_ENTITY表の少なくとも2つの行によって参照されます。これらの行を使用して、特定の連結に関連するエンティティをフィルタおよび特定できます。

表27 CN_Structure表

名前	タイプ	Null	キー	説明
ID	Integer	N	PK	
name	nchar(225)	N	-	連結の名前

名前	タイプ	Null	キー	説明
label_name	nvarchar (1)	N	-	ラベルの名前

EPMシステム製品との統合

サブトピック

- [要件](#)
- [EssbaseおよびPlanningへのバッチ・エクスポートの自動化](#)
- [FDMとの統合](#)

要件

データの統合性とシステムの堅牢性を確保するには、Strategic Financeサーバーを専用コンピュータにインストールします。

Strategic Financeを他のEPM System製品とともに使用するには、『Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』に示すように、Shared Servicesをインストールして構成します。

EssbaseおよびPlanning

Strategic Finance、Planning、とEssbase間でデータを共有するには、PlanningおよびEssbaseのWindowsクライアントを、Strategic Finance ServerおよびStrategic Financeクライアントをホストするコンピュータにインストールします。EssbaseでStrategic Financeデータを使用して実行できるタスクを最も多くするには、次の製品もインストールします：

- Oracle Hyperion Interactive Reporting Web Client
- Oracle Smart View for Office
- Oracle Hyperion Financial Reporting
- Oracle Hyperion Web Analysis Studio

EssbaseおよびPlanningへのバッチ・エクスポートの自動化

エンティティがStrategic Financeサーバーで変更および更新されるたびにOracle EssbaseまたはOracle Hyperion Planningに自動的にエクスポートされるようエンティティを構成できます。

▶ EssbaseおよびPlanningへのエクスポートを自動化するには：

1. 管理者で「データベース」を選択します。
2. 「データベース」で、データベースを選択します。
3. 「データベース」、「自動エクスポート」の順に選択します。
4. 「チェックイン時のエクスポート」で、「チェックイン時に自動でPlanning/Essbaseにエクスポート」を選択します。

5. 「参照するバッチ」でバッチを選択して、「OK」をクリックします。

FDMとの統合

この製品は、ソースレベルの財務データを、連結、レポート、プランニングおよび分析用のアプリケーションに提供する、革新的なデータ変換ツールです。監査証跡をソース財務データに提供することによってデータの統合性とマッピングの一貫性が確保されるため、財務データを簡単に調整できるようになります。

Strategic FinanceはOracle Hyperion Financial Data Quality Managementをデータ・インポートのソースとして使用するため、FDMで使用できるデータ・ソースに基づくStrategic Finance財務モデルを作成できます。

- ERPシステム
- フラット・ファイル
- リレーショナル・データベース・システム
- Microsoft Excel

統合の構成

▶ FDMによる統合を構成するには:

1. Strategic Finance管理者で、「データベース」を選択します。
2. 「データベース」で、データベースを選択します。
3. 「データベース」、「FDM設定」の順に選択します。
4. 「FDM設定」で次を入力します:
 - 「アダプタ名」を入力します。
 - 「アプリケーション名」にアプリケーションの名前を入力します。
5. 「OK」をクリックします。
6. %EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\binに移動して、HSFHMLink_A.dllをHSFHMLink.dllにコピーします。

ドリルバック分析の使用

FDM経由でインポートされたデータを含んでいるセルを右クリックすると、交差の監査を使用してデータ・ソースを検出できます。FDM経由でインポートされたデータを含むセルには、右下の角にマゼンタのチェック・マークが付きます。交差の監査は、Oracle Hyperion Financial Data Quality ManagementにアクセスするWebブラウザを起動します。ここで、データ・ロードやデータ・マッピングの詳細の確認やソースのドリルを実行できます。

5

エンティティおよびエンティティ・グループの管理

この項の内容:

エンティティの管理	51
エンティティ・グループの管理	53
エンティティのチェックイン・ルールの設定とアーカイブの管理	54

エンティティは、サーバーに保管されているStrategic Finance (*.alc)ファイルです。エンティティ・グループを使用して、エンティティを一括管理できます。

エンティティにアクセスする前に、データベースを選択します。

エンティティの管理

サブトピック

- [エンティティへのアクセス](#)
- [エンティティの所有者の変更](#)
- [エンティティのロックの解除](#)
- [エンティティの手動エクスポート](#)
- [拡張分析の手動エクスポート](#)
- [アップグレード後のエンティティの変換](#)

エンティティへのアクセス

- ▶ エンティティにアクセスするには:
1. 管理者で「データベース」を選択します。
 2. データベースをダブルクリックします。
 3. 「エンティティ」を選択します。

エンティティの所有者の変更

- ▶ エンティティの所有者を変更するには:
1. 管理者で「エンティティ」を選択します。
 2. エンティティまたはバッチを選択します。
 3. 「編集」、「所有者」の順に選択します。
 4. 「新規所有者のドメイン名」にネットワーク・ドメインを入力します。

「参照」をクリックして検索します。

5. 「新規所有者のユーザー名」にユーザー名を入力します。
6. 「OK」をクリックします。

エンティティのロックの解除

▶ エンティティ・ロックを解除するには:

1. 管理者で「エンティティ」を選択します。
2. エンティティ・ツリーでロック済のエンティティを選択します。
3. 「編集」、「ロックの解除」の順に選択します。

エンティティの手動エクスポート

▶ エンティティをエクスポートするには:

1. 「エンティティ」を選択します。
2. エンティティを選択します。
 - エンティティの範囲を選択する場合は、[Shift]を押します。
 - 特定のエンティティを選択する場合は、[Ctrl]を押します。
3. 「編集」、「エクスポート」の順に選択します。

拡張分析の手動エクスポート

▶ エンティティを拡張分析に手動でエクスポートするには:

1. 「エンティティ」を選択します。
2. エンティティを選択します。
 - エンティティの範囲を選択する場合は、[Shift]を押します。
 - 特定のエンティティを選択する場合は、[Ctrl]を押します。
3. 「編集」、「拡張分析データのエクスポート」の順に選択します。

アップグレード後のエンティティの変換

Alcarのバージョン2.xまたは6.xからのアップグレードでは、変換機能を使用して既存データをアップグレードします。

- [52ページのデータベース・エンティティの一括変換](#)
- [53ページの選択済エンティティの変換](#)

データベース・エンティティの一括変換

▶ データベース全体を一括変換するには:

1. 管理者で「エンティティ」を選択します。
2. 「編集」、「変換」、「すべて」の順に選択します。

選択済エンティティの変換

- ▶ 特定のエンティティを変換するには:
 1. 管理者で「エンティティ」を選択します。
 2. 1つ以上のエンティティを選択します。
 3. 「編集」、「変換」、「選択」の順に選択します。

エンティティ・グループの管理

サブトピック

- [エンティティ・グループの追加](#)
- [エンティティ・グループの編集](#)
- [エンティティ・グループの削除](#)

エンティティ・グループを使用して、エンティティのアクセス権を一括管理します。

エンティティ・グループの追加

- ▶ エンティティ・グループを追加するには:
 1. 管理者で「エンティティ・グループ」を選択します。
 2. 「グループ」、「追加」の順に選択します。
 3. 「エンティティ・グループの追加」に名前を入力します。
 4. 「OK」をクリックします。
 5. エンティティを追加します。

[53ページのエンティティ・グループの編集](#)を参照してください。

エンティティ・グループの編集

- ▶ エンティティ・グループを編集するには:
 1. 管理者で「エンティティ・グループ」を選択します。
 2. 「エンティティ・グループ名」で1つのエンティティ・グループを選択します。
 3. 「グループ」、「編集」の順に選択します。
 4. 「エンティティ・グループの編集」で、エンティティを追加または除去します。

- 使用可能なエンティティ

現在はグループに含まれていないものの、グループに追加可能なエンティティです。エンティティを選択して、「追加>>」をクリックします。

- グループ・メンバー

エンティティ・グループに含まれるエンティティです。これを除去するには、エンティティを選択して「<<削除」をクリックします。

5. 「OK」をクリックします。

エンティティ・グループの削除

このグループのすべてのエンティティに関連付けられているアクセス権限をすべて削除します。エンティティ自体は削除されません。

▶ エンティティ・グループを削除するには:

1. 「エンティティ・グループ」を選択します。
2. 「エンティティ・グループ名」で1つのエンティティ・グループを選択します。
3. 「グループ」、「削除」の順に選択します。

エンティティのチェックイン・ルールの設定とアーカイブの管理

ユーザーがエンティティをサーバーにチェックインする場合には、アーカイブおよびチェックイン・ルールが適用されません。アーカイブを検査して修復できます。

- [54ページのエンティティのチェックイン・ルールの設定](#)
- [54ページのエンティティ・アーカイブの管理](#)

エンティティのチェックイン・ルールの設定

チェックイン・ルールとは、エンティティのチェックイン時にユーザーが実行しなければならないアクションです。

▶ エンティティのチェックイン・ルールを設定するには:

1. 管理者で「エンティティ」を選択します。
2. 「編集」、ルールのチェックインの順に選択します。
3. 次のルールを選択します。

「チェックイン時にコメントが必要」

これは、ユーザーに対してエンティティの状態を説明するコメントの入力を求めるルールです。これを入力しない場合にはサーバーへのチェックインは許可されません。

4. 「閉じる」をクリックします。

エンティティ・アーカイブの管理

アーカイブ・エンティティ・ルールは、エンティティのバージョン追跡を定義し、データベース内のすべてのエンティティまたは1つのエンティティに適用できます。

▶ アーカイブ・エンティティ・ルールを設定するには:

1. 管理者で「エンティティ」を選択します。
2. オプション: エンティティ・ツリーでエンティティを選択します。

アーカイブ・ルールを1つのエンティティに適用する手順は次のとおりです。

3. 「編集」、「アーカイブ・ルール」の順に選択します。
4. 「アーカイブ・ファイルの管理」で、ポリシーの範囲を選択します。
 - デフォルト・ポリシーの設定 - デフォルトをすべてのエンティティに適用します。
 - 個々のエンティティ・アーカイブ・ポリシーの設定 - 特定のエンティティに適用します。
5. アーカイブ・ルールを適用または削除する場合を定義します。
 - デフォルトの使用 - デフォルト・ルールを適用します。
 - この日数経過後にアーカイブ・ファイルを削除 - <days>後にアーカイブを削除します。
 - 保存するアーカイブ数 - 保存するアーカイブ数
 - アーカイブ・ファイルを削除しない - アーカイブ・エンティティを削除しません。
 - エンティティのチェックイン時に毎回このルールを適用する - 選択したポリシーに基づき、エンティティ・アーカイブを自動消去する場合に選択します。
6. オプション: 上書きされたアーカイブ・ポリシーを持つエンティティのみを表示するには、「デフォルト設定を上書きするエンティティのみ表示」をクリックします。
7. オプション: 破損したアーカイブについては、アーカイブを選択して「修復」をクリックします。
8. 「設定の保存」をクリックします。
9. 「閉じる」をクリックします。

6

データベースとエンティティへのユーザーおよびグループ・アクセス権の指定

この項の内容:

全般データベース・アクセス権の割当て	57
データベース、エンティティおよびエンティティ・グループへのデフォルト・アクセス権の構成	58
データベース、エンティティまたはエンティティ・グループへのユーザーおよびグループの追加	63

デフォルトのデータベースおよびエンティティへのアクセス権は、次のように決定されます:

- 所有者はデータベース所有者のアクセス権を定義します。
- デフォルトは標準ユーザーのアクセス権を定義します。

全般データベース・アクセス権の割当て

サブトピック

- [ユーザーおよびグループのアクセス権の割当て](#)
- [全般データベース・オプションの割当て](#)

ユーザーおよびグループのアクセス権の割当て

▶ 全般データベース・アクセス権を構成するには:

1. 「データベース」を選択します。
2. データベースをダブルクリックします。
3. 「アクセス」、「データベース・オプション」の順に選択します。
4. 「アクセス権の作成/編集」を選択します。

最初は、<デフォルト>ユーザーのみが表示されます。

5. 「共有サービス」で作成されたユーザーまたはグループを追加するには、「作成」、「アクセス権の編集」の順に選択します。

6. オプション: デフォルト・ユーザー、別のユーザーまたはグループに対してデータベース・アクセス権を指定するには、<databaseName>のデータベース・オプションの編集で次のように選択します:

- <デフォルト>を選択します。
- 「ユーザー」または「グループ」をダブルクリックします。

7. オプション: 全般データベース・アクセス権を構成します。

[58ページの全般データベース・オプションの割当て](#) を参照してください。

8. オプション: ユーザーまたはグループを削除するには、<databaseName>のデータベース・オプションの編集を選択し、ユーザーまたはグループを選択して「削除」をクリックします。

全般データベース・オプションの割当て

▶ データベース全般オプションを構成するには:

1. 「アクセス権の作成/編集」で、ユーザーまたはグループを選択し、「編集」をクリックします。
2. 「データベース全般」を選択します。
3. いずれかのオプションを選択します。ほとんどのオプションは説明を要しませんが、次の点に注意してください:
 - ルートへの配置を許可 - ユーザーはエンティティをルートまたは親として作成または追加できます
 - サーバベースのマップ作成を許可 - ユーザーはインポート・マップおよびエクスポート・マップを作成できます。
 - バッチの作成を許可 - ユーザーはインポート・バッチおよびエクスポート・バッチを作成できます。
4. 「OK」をクリックします。

データベース、エンティティおよびエンティティ・グループへのデフォルト・アクセス権の構成

サブトピック

- [デフォルト・アクセス権の割当て](#)
- [エンティティ・アクセス権オプションの構成](#)
- [勘定科目アクセス権オプションの構成](#)
- [権限グループの追加](#)
- [時間アクセス権オプションの構成](#)
- [レポート・アクセス権オプションの構成](#)
- [シナリオ・アクセス権オプションの構成](#)
- [ディメンションのアクセス権オプションの構成](#)
- [連結アクセス権オプションの構成](#)
- [リファレンス・アクセス権オプションの構成](#)
- [新規エンティティに対するデフォルト・アクセス権の構成](#)

デフォルト・アクセス権の編集ダイアログ・ボックスで所有者、ユーザー、ユーザー・グループおよびデフォルト・ユーザーにアクセス権を割り当てます。このボックスでは、ユーザーおよびグループを追加することもできます。

デフォルト・アクセス権の割当て

デフォルト・アクセス権の編集を使用して、データベース、エンティティ、またはエンティティ・グループへのユーザーまたはユーザー・グループのアクセス権を構成します。コンテキストはタブのアクセス方法によって異なります:

- データベースの場合には、「データベース」タブでデータベースを選択し、「アクセス」、デフォルトの編集の順に選択します。
- エンティティの場合には、「エンティティ」タブでエンティティを選択し、「編集」、「アクセス」の順に選択します。
- エンティティ・グループの場合には、「エンティティ・グループ」タブでグループを選択し、「グループ」、「アクセス」の順に選択します。

▶ データベース、エンティティ、またはエンティティ・グループに対するユーザーまたはユーザー・グループのアクセス権を構成するには:

1. 「データベース」を選択します。
2. データベースをダブルクリックします。
3. オプション: 次のいずれかのアクションを行います。
 - 1つのエンティティのアクセス権を構成する場合は、「エンティティ」を選択して、そのエンティティを選択します。
 - エンティティ・グループのアクセス権を構成する場合は、「エンティティ・グループ」を選択して、そのエンティティ・グループを選択します。
4. 次のいずれかのアクションを行います。
 - データベースの場合には、「アクセス」、「データベース・オプション」またはデフォルトの編集の順に選択します。
 - エンティティの場合には、「編集」、「アクセス」の順に選択します。
 - エンティティ・グループの場合には、「グループ」、「アクセス」の順に選択します。
5. オプション: 「デフォルト・アクセス権の編集」にユーザーまたはユーザー・グループを追加します。
 - ユーザーを追加する手順については、[64ページのユーザーの追加](#)を参照してください。
 - ユーザー・グループを追加する手順については、[64ページのデータベース、エンティティ、またはエンティティ・グループへのユーザー・グループの追加](#)を参照してください。
6. オプション: ユーザーまたはグループを削除するには、「データベース・オプションの編集」で選択してから、「削除」をクリックします。
7. オプション: デフォルトのアクセス権オプションを編集するには、「編集」をクリックしてから、構成するオプションを選択します:
 - [59ページのエンティティ・アクセス権オプションの構成](#)
 - [60ページの勘定科目アクセス権オプションの構成](#)
 - [61ページの時間アクセス権オプションの構成](#)
 - [61ページのシナリオ・アクセス権オプションの構成](#)
 - [62ページのディメンションのアクセス権オプションの構成](#)
 - [62ページの連結アクセス権オプションの構成](#)
 - [62ページのリファレンス・アクセス権オプションの構成](#)
 - [61ページのレポート・アクセス権オプションの構成](#)
8. オプション: 新規エンティティのアクセス権オプションを定義するには、「新規エンティティ」を選択します。
[63ページの新規エンティティに対するデフォルト・アクセス権の構成](#)を参照してください。
9. 「OK」をクリックします。

エンティティ・アクセス権オプションの構成

▶ エンティティ・レベルのアクセス権を構成するには:

1. 「<databaseName/entityName/entityGroup>のデフォルト・アクセス権の編集」にアクセスします。
[58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)を参照してください。
2. 「エンティティ」を選択します。
3. 「アクセス」で次のいずれかのオプションを選択します。

- ・ なし - エンティティをチェックアウトできません。
 - ・ コピーとして開く - エンティティをチェックアウトできます。
 - ・ エンティティのチェックアウト - エンティティをチェックインおよびチェックアウトできます。
4. オプション: ユーザーがエンティティ関連タスクを実行できるようにするには、次のようなオプションを選択します。
- ・ エンティティ・コメントの読取り - ユーザーがエンティティのチェックイン・コメントを読取りできます。
 - ・ エンティティ変更管理を許可 - エンティティ変更管理をアクティブ化します。
 - ・ 仮定変更管理を許可 - 仮定変更管理をアクティブ化します。
 - ・ エンティティの削除 - ユーザーがエンティティを削除できます。
 - ・ 別のHyperionアプリケーションへのバッチ・エクスポートを許可 - バッチ・エクスポートを有効にします。
 - ・ 別のHyperionアプリケーションからのバッチ・インポートを許可 - バッチ・インポートを有効にします。
 - ・ HSFデータ・リンクの変更 - HSFリンクを有効にします。
 - ・ 必須要素の変更 - ユーザーがサブ勘定科目を必須要素として割当てできます。
5. [58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)に戻ります。

勘定科目アクセス権オプションの構成

「デフォルト・アクセス権の編集」-「勘定科目」タブを使用して、勘定科目へのアクセス権を構成します。

▶ 勘定科目のアクセス権を構成するには:

1. 「<databaseName/entityName/entityGroup>のデフォルト・アクセス権の編集」にアクセスします。

[58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)を参照してください。

2. 「勘定科目」を選択します。
3. 「権限グループ」を選択します。

「権限グループ」には、ソース・エンティティで権限グループとして分類されている勘定科目グループが表示されます。

デフォルトには、勘定科目グループに属していない勘定科目も含まれています。

- ・ 「追加」をクリックして新規のグループを追加します。 [61ページの権限グループの追加](#)を参照してください。
- ・ グループを削除するには、グループを選択して「削除」をクリックします。



注:

勘定科目グループは追加または削除はできますが、ユニバーサル・デフォルト・グループは削除できません。

4. 次のような「勘定科目」オプションを選択します。

- ・ サブ勘定科目の追加/削除 - ユーザーがサブ勘定科目の構造を変更できます。

- ・ ユーザー定義勘定科目の編集 - ユーザーがメモ、割合、契約などの勘定科目を変更できます。
- ・ 実績への入力を許可 - ユーザーが実績シナリオのデータおよび期間を変更できます。

権限グループの追加

- ▶ 権限グループを追加するには:
 1. 権限グループを選択します。
 2. 「OK」をクリックします。

時間アクセス権オプションの構成

- ▶ 時間のアクセス権を構成するには:
 1. 「<databaseName/entityName/entityGroup>のデフォルト・アクセス権の編集」にアクセスします。
[58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)を参照してください。
 2. 「時間」を選択します。
 3. 時間アクセス権オプションを選択します。「期間情報の変更」選択すると、[60ページの勘定科目アクセス権オプションの構成](#)で構成されない一般的な期間の変更を行うことができます。

レポート・アクセス権オプションの構成

- ▶ レポートのアクセス権を構成するには:
 1. 「<databaseName/entityName/entityGroup>のデフォルト・アクセス権の編集」にアクセスします。
[58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)を参照してください。
 2. 「レポート」を選択します。
 3. 次のような「グローバル権限」オプションを選択します。
 - ・ デフォルト数値フォーマット - レポートの数値フォーマットを変更します。
 - ・ デフォルト・レポートのロード - 標準レポートを元のレイアウトにリストアします。
 - ・ レポートの追加 - ユーザーがフリースタイル・レポートを追加できます。
 4. 「レポート」で、編集、非表示および保護(レポート・セルのロック)などのレポート権限を指定します。

シナリオ・アクセス権オプションの構成

- ▶ シナリオのアクセス権を構成するには:
 1. 「<databaseName/entityName/entityGroup>のデフォルト・アクセス権の編集」にアクセスします。
[58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)を参照してください。
 2. 「シナリオ」を選択します。
 3. ユーザーが実行可能なタスクを制御するための「グローバル権限」を選択します。
 - ・ シナリオの追加 - シナリオを作成します

- ・ 出力ストレージ・ルールの変更 - 出力値を変更します
 - ・ シナリオ固有の勘定科目にのみ入力を許可 - 特定の勘定科目のみに変更を行います
4. 「アクセス・コントロール・アイテム」で、「データおよび予測メソッド」オプションを選択して、シナリオでのデータおよび予測メソッドの変更方法を決定します。
- ・ データまたは予測メソッドの変更は不可 - 変更なし
 - ・ データのみ変更 - 財務データのみを変更します
 - ・ データおよび予測メソッドの変更 - 財務データと予測メソッドを変更
5. オプション: ユーザーが実行可能な次のようなタスクを選択します。
- ・ 勘定科目の追加/削除 - ユーザーがシナリオ(基本シナリオおよび実績シナリオを除く)内の勘定科目を追加または削除できます。
 - ・ 削除の選択 - ユーザーがシナリオ(基本シナリオおよび実績シナリオを除く)を削除できます。
 - ・ シナリオ・タイプの変更 - ユーザーがシナリオ・タイプを変更できます。

ディメンションのアクセス権オプションの構成

▶ ディメンションのアクセス権を構成するには:

1. <database/entity/entitygroup>のデフォルト・アクセス権の編集にアクセスします。

[58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)を参照してください。

2. 「ディメンション」を選択します。
3. ディメンションのアクセス・オプションを選択します。

- ・ ディメンションの維持を許可

ユーザー定義のディメンションを作成および削除できるようにします。

- ・ ディメンションの割当てを許可

ユーザー定義のディメンションを割当ておよび除去できるようにします。

連結アクセス権オプションの構成

▶ 連結のアクセス権を構成するには:

1. <database/entity/entitygroup>のデフォルト・アクセス権の編集にアクセスします。

[58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)を参照してください。

2. 「連結」を選択します。
3. データベースに対するエンティティの追加および削除、連結構造からのエンティティの削除、連結構造でのエンティティの特徴の変更などの「連結構造」アクセス・オプションを選択します。

リファレンス・アクセス権オプションの構成

▶ リファレンスのアクセス権を構成するには:

1. `<database/entity/entitygroup>`のデフォルト・アクセス権の編集にアクセスします。
[58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)を参照してください。
2. 「リファレンス」を選択します。
3. 「権限グループ/レポート/シナリオ一覧の取得元」オプションを選択して、現在のエンティティやエンティティ・グループ内の最初のエンティティなどの、レポートのソース・エンティティを指定します。

新規エンティティに対するデフォルト・アクセス権の構成

デフォルト・アクセス権の編集 - 「新規エンティティ」タブを使用して、新規エンティティのデフォルトのアクセス権を定義します。

▶ 新規エンティティのデフォルトのアクセス権を構成するには:

1. 「`<databaseName/entityName/entityGroup>`のデフォルト・アクセス権の編集」にアクセスします。
[58ページのデフォルト・アクセス権の割当て](#)を参照してください。
2. 「新規エンティティ」を選択します。
3. 「新規作成の子エンティティがアクセス・レコードを取得する手段」オプションを選択して、次のアクセス権限のソースを定義します。
 - このエンティティに対するアクセス・レコードのコピーを作成 - デフォルト・アクセスを使用します。
 - 事前定義済のアクセス・レコードをコピー - 「アクセス権の編集」をクリックしてアクセス権を作成します。参照:
 - [59ページのエンティティ・アクセス権オプションの構成](#)
 - [60ページの勘定科目アクセス権オプションの構成](#)
 - [61ページの時間アクセス権オプションの構成](#)
 - [61ページのシナリオ・アクセス権オプションの構成](#)
 - [62ページのディメンションのアクセス権オプションの構成](#)
 - [62ページの連結アクセス権オプションの構成](#)
 - [61ページのレポート・アクセス権オプションの構成](#)
 - [62ページのリファレンス・アクセス権オプションの構成](#)
 - グループへエンティティを割当て - グループを選択します
 - エンティティ作成者によるグループへの割当てを許可 - エンティティ作成者によるエンティティのグループへの割当てを可能にします

データベース、エンティティまたはエンティティ・グループへのユーザーおよびグループの追加

サブトピック

- [ユーザーの追加](#)
- [データベース、エンティティ、またはエンティティ・グループへのユーザー・グループの追加](#)

データベースを作成したら、ユーザーを追加します。ユーザーは外部サービス・プロバイダのユーザーIDによって内部で認証されます。

ユーザーの追加

▶ データベース、エンティティ、エンティティ・グループへのユーザーまたはユーザー・グループを追加するには:

1. 管理者で、「データベース」を選択します。
2. データベースをダブルクリックします。
3. ユーザーまたはユーザー・グループを追加するには、次のアクションを実行します。
 - ユーザーをエンティティに追加する場合は、「エンティティ」を選択してからエンティティを選択します。
 - ユーザーをエンティティ・グループに追加する場合は、「エンティティ・グループ」を選択してから、グループを選択します。
4. 次のいずれかのアクションを行います。
 - データベースの場合には、「アクセス」、次に「データベース・オプション」またはデフォルトの編集の順に選択します。
 - エンティティの場合には、「編集」、次に「アクセス」を選択します。
 - エンティティ・グループの場合には、「グループ」、次に「アクセス」を選択します。
5. 「データベース・オプションの編集」または「デフォルト・アクセス権の編集」で「ユーザーの追加」をクリックします。
6. ユーザーを選択します。
7. 「アクセス権のコピー元」で、アクセス権のコピーに使用するソース・ユーザーを選択します。
8. 「OK」をクリックします。

データベース、エンティティ、またはエンティティ・グループへのユーザー・グループの追加

▶ データベース、エンティティまたはエンティティ・グループへユーザー・グループを追加するには:

1. 「データベース」を選択します。
2. データベースをダブルクリックします。
3. ユーザーまたはユーザー・グループをエンティティまたはエンティティ・グループに追加するには、次の操作を実行します。
 - エンティティの場合には、「エンティティ」を選択してから、エンティティを選択します。
 - エンティティ・グループの場合には、「エンティティ・グループ」を選択してから、グループを選択します。
4. 次のいずれかのアクションを行います。
 - データベースの場合には、「アクセス」、次に「データベース・オプション」またはデフォルトの編集を選択します。
 - エンティティの場合には、「編集」、次に「アクセス」を選択します。
 - エンティティ・グループの場合には、「グループ」、次に「アクセス」を選択します。
5. 「データベース・オプションの編集」またはデフォルト・アクセス権の編集で「グループの追加」をクリックします。
6. 「名前」によってグループを参照します。
7. 「ユーザー・グループ」でユーザー・グループを選択して「OK」をクリックします。
8. 「グループの追加」でソース・ユーザー・グループを選択してからアクセス権のコピーをクリックします。
9. 「OK」をクリックします。

7

クライアント側の機能 のアクティブ化と管理

この項の内容:

エンティティ変更管理のアクティブ化と管理	65
仮定変更マネージャのアクティブ化と管理	67
バッチ、マップ、サーバーのインポートまたはエクスポートの管理	68

管理者を使用して、次のStrategic Financeクライアント機能を管理します。

- エンティティ変更管理
- 仮定変更管理
- マップとバッチのインポートおよびエクスポート

エンティティ変更管理のアクティブ化と管理

サブトピック

- エンティティ変更管理のアクティブ化
- ECMドキュメントへのアクセス権の定義
- ECMドキュメントへのユーザーの追加
- ECMドキュメントへのユーザー・グループの追加
- ECMドキュメントへのアクセス権の編集
- ECMドキュメントの所有者の変更
- ECMドキュメントのロックの解除

エンティティ変更管理のアクティブ化

▶ ECMをアクティブ化するには:

1. 「データベース」で、データベースをダブルクリックします。
2. 「アクセス」、「データベース・オプション」の順に選択します。
3. 「データベース・オプションの編集」で<デフォルト>を選択して「編集」をクリックします。
4. 「データベース全般」で「エンティティ変更管理を許可」を選択して「OK」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「データベース」、「編集」の順に選択します。
7. デフォルト・アクセス権の編集で<所有者>を選択して「編集」をクリックします。
8. 「エンティティ」をクリックして、「エンティティ変更管理を許可」を選択して「OK」をクリックします。
9. デフォルト・アクセス権の編集で<デフォルト>を選択して「編集」をクリックします。
10. 「エンティティ」をクリックして、「エンティティ変更管理を許可」を選択して「OK」をクリックします。
11. 「OK」をクリックしてサーバーを再起動します。

ECMドキュメントへのアクセス権の定義

▶ ECMドキュメントへのアクセス権を管理するには:

1. 管理者で「**ECM**」を選択します。
2. 「**ECMドキュメント**」で名前を選択します。
3. 「**編集**」、次に「**アクセス**」を選択します。
4. 「**アクセス権の編集**」で、次の操作を行います。
 - [66ページのECMドキュメントへのユーザーの追加](#)
 - [66ページのECMドキュメントへのユーザー・グループの追加](#)
 - 所有者、デフォルト・ユーザー、特定のユーザーまたはグループのアクセス権を変更するには、<ECMドキュメント名>の**アクセス権の編集**で名前を選択して「**編集**」をクリックしてから、[66ページのECMドキュメントへのアクセス権の編集](#)を参照します。
5. 「**OK**」をクリックします。

ECMドキュメントへのユーザーの追加

▶ ユーザーを追加するには:

1. 「**アクセス権の編集**」にアクセスします。

[66ページのECMドキュメントへのアクセス権の定義](#)を参照してください。
2. 「**ユーザーの追加**」をクリックします。
3. 「**参照**」をクリックします。

[64ページのユーザーの追加](#)を参照してください。
4. 「**アクセス権のコピー**」で、アクセス権の設定をコピーするソース・ユーザーを選択します。
5. 「**OK**」をクリックします。

ECMドキュメントへのユーザー・グループの追加

▶ ユーザー・グループを追加するには:

1. 「**アクセス権の編集**」にアクセスします。

[66ページのECMドキュメントへのアクセス権の定義](#)を参照してください。
2. 「**グループの追加**」をクリックします。
3. 「**参照**」をクリックします。
4. 「**ユーザー・グループ**」でユーザー・グループを選択して「**OK**」をクリックします。
5. 「**グループの追加**」の「**アクセス権のコピー**」で、アクセス権の設定をコピーするソース・グループを選択します。
6. 「**OK**」をクリックします。

ECMドキュメントへのアクセス権の編集

▶ ECMドキュメントのアクセス権を編集するには:

1. 「アクセス権の編集」にアクセスします。

[66ページのECMDキュメントへのアクセス権の定義](#)を参照してください。

2. 「アクセス」で次のいずれかのオプションを選択します。

- なし

アクセス権はありません。

- コピーとして開く

ECMDキュメントを読取り専用コピーとして開けるようにします。

- チェック・アウト

ECMDキュメント内のエンティティを開けるようにします。

3. オプション: ユーザーがECMDキュメントを実行または削除できるようにするにはオプションを選択します。
4. 「OK」をクリックします。

ECMDキュメントの所有者の変更

- ▶ ECMドキュメントの所有者を変更するには:

1. 「ECM」をクリックします。
2. 「ECMDキュメント」で名前を選択します。
3. 「編集」、「所有者」の順に選択します。
4. 「新規所有者のドメイン名」で「参照」をクリックしてユーザーを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

ECMDキュメントのロックの解除

- ▶ ECMドキュメントのロックを解除するには:

1. 「ECM」をクリックします。
2. 「ECMDキュメント」でECMDキュメントを選択します。
3. 「編集」、「ロックの解除」の順に選択します。

仮定変更マネージャのアクティブ化と管理

サブトピック

- [仮定変更マネージャのアクティブ化](#)
- [ACMDキュメントに対するユーザーおよびグループの追加と削除](#)
- [ACMDキュメント所有者の変更](#)
- [ACMDキュメントのロックの解除](#)

「ACM」(仮定変更マネージャ)タブには、すべてのACMDキュメントとその所有者が一覧表示されます。ACMDキュメントにより、基本エンティティにある複数のターゲット・エンティティを一括管理できるようになります。ACMDキュメントはStrategic Financeクライアント上に作成されますが、その実行場所はサーバーです。

仮定変更マネージャのアクティブ化

ACMをアクティブ化するには、次の手順を実行します

- 57ページの全般データベース・アクセス権の割当て。
- 58ページのデータベース、エンティティおよびエンティティ・グループへのデフォルト・アクセス権の構成。

ACMドキュメントに対するユーザーおよびグループの追加と削除

▶ ACMドキュメントに対するユーザーまたはグループのアクセス権を定義するには:

1. 「**ACM**」を選択します。
2. 「**ACMドキュメント**」で名前を選択します。
3. 「**編集**」、次に「**アクセス**」を選択します。
4. 「**アクセス権の編集**」で、次の操作を行います:
 - ユーザーを追加するには、「**ユーザーの追加**」をクリックします。
 - ユーザー・グループを追加するには、「**グループの追加**」をクリックします。
 - 所有者、デフォルト・ユーザー、特定のユーザーまたはユーザー・グループのアクセス権を編集するには、**<ACMドキュメント名>のアクセス権の編集**でアクセス権を選択して「**編集**」をクリックします。
 - ユーザーまたはユーザー・グループを削除するには、「**<ACMドキュメント名>のアクセス権の編集**」でユーザーまたはユーザー・グループを選択して「**削除**」をクリックします。
5. 「**OK**」をクリックします。

ACMドキュメント所有者の変更

▶ ACMドキュメントの所有者を変更するには:

1. 「**ACM**」を選択します。
2. 「**ACMドキュメント**」で名前を選択します。
3. 「**編集**」、次に「**所有者**」を選択します。
4. 「**新規所有者のドメイン名**」で参照機能を使用してユーザーを選択します。
5. 「**OK**」をクリックします。

ACMドキュメントのロックの解除

▶ ACMドキュメントのロックを解除するには:

1. 「**ACM**」を選択します。
2. 「**ACMドキュメント**」で名前を選択します。
3. 「**編集**」、「**ロックの解除**」を選択します。

バッチ、マップ、サーバーのインポートまたはエクスポートの管理

サブトピック

- [EPM System製品のサーバーへの接続の管理](#)
- [バッチの管理](#)
- [マップの管理](#)

Strategic Financeと他のEPM Systemアプリケーションの間でデータをインポート/エクスポートするには、マップおよびバッチのインポート/エクスポートに関するアクセス権をエンド・ユーザーに付与します。

EPM System製品のサーバーへの接続の管理

Strategic Financeサーバーと他のOracle Enterprise Performance Management Systemサーバーの間でユーザーがインポート/エクスポートを実行できるようにするには、まず接続を作成する必要があります。

- ▶ その他のEPM System製品のサーバーへの接続を作成するには:
 1. **Oracle Hyperion Servers**にアクセスして、「追加」をクリックします。
 2. 「管理者」で「サーバー」、「プランニング・サーバー」の順に選択します。
 3. サーバーを削除するには、そのサーバーを選択して「削除」をクリックします。
 4. 「OK」をクリックします。
 5. 「新規サーバー」にサーバーのネットワーク名を入力して、「OK」をクリックします。

バッチの管理

サブトピック

- [バッチへのユーザーおよびグループのアクセス権の定義](#)
- [デフォルトのバッチ・アクセス権の上書き](#)
- [バッチの所有者の変更](#)

バッチへのユーザーおよびグループのアクセス権の定義

ユーザーとグループがバッチにアクセスできるかどうかとそのアクセス方法は、デフォルト設定で設定されています。

- ▶ デフォルトのバッチ・アクセス・コントロールを作成するには:
 1. 管理者で「バッチ」を選択します。
 2. バッチを選択します。
 3. 「編集」、次に「アクセス」を選択します。
 4. 「アクセス権の編集」で、次の操作を行います:
 - 「ユーザーの追加」をクリックして、ユーザーを追加します。
[66ページのECMDキュメントへのユーザーの追加](#)を参照してください。
 - 「グループの追加」をクリックして、グループを追加します。
[66ページのECMDキュメントへのユーザー・グループの追加](#)を参照してください。
 - 所有者、デフォルト・ユーザー、特定のユーザー、またはユーザー・グループのアクセス権を編集するには、「<batchName>のアクセス権の編集」でアクセス権を選択して「編集」をクリックします。

[70ページの デフォルトのバッチ・アクセス権の上書き](#)を参照してください。

- ユーザーまたはユーザー・グループを削除するには、<batchName>のアクセス権の編集でユーザーまたはユーザー・グループを選択して「削除」をクリックします。

5. 「OK」をクリックします。

デフォルトのバッチ・アクセス権の上書き

▶ デフォルトのバッチ・アクセス権を上書きするには:

1. 「アクセス権の編集」で、ユーザーまたはグループを選択し、「編集」をクリックします。
2. 「<userName/groupName>のアクセス権の編集」で、「アクセス」を選択します。

- なし

アクセス権はありません。

- チェックアウト/バッチの実行

ユーザーまたはユーザー・グループがバッチをチェックアウトして実行できるようにします。

3. オプション:「バッチの削除」をクリックして、ユーザーまたはグループがバッチを削除できるようにします。
4. 「OK」をクリックします。

バッチの所有者の変更

▶ バッチの所有者を変更するには:

1. 「バッチ」を選択します。
2. 「バッチ」からバッチを選択します。
3. 「編集」、次に「所有者」を選択します。
4. 「所有者の変更」にユーザーを入力します。
5. 「OK」をクリックします。

マップの管理

サブトピック

- [アクセス権の管理](#)
- [デフォルトのマップ・アクセス権の上書き](#)
- [マップの所有者の変更](#)

アクセス権の管理

▶ マップ・アクセス権を管理するには:

1. 「マップ」を選択します。
2. マップを選択します。
3. 「編集」、次に「アクセス」を選択します。
4. 「アクセス権の編集」で、次の操作を行います:

- ユーザーを追加するには、「ユーザーの追加」をクリックします。

66ページのECMドキュメントへのユーザーの追加を参照してください。

- ユーザー・グループを追加するには、「グループの追加」をクリックします。

66ページのECMドキュメントへのユーザー・グループの追加を参照してください。

- 所有者、デフォルトのユーザー、別のユーザー、ユーザー・グループのアクセス権を編集するには、「<mapName>のアクセス権の編集」で編集する対象を選択して、「編集」をクリックします。

71ページのデフォルトのマップ・アクセス権の上書きを参照してください。

- ユーザーまたはユーザー・グループを削除するには、<mapName>のアクセス権の編集でユーザーまたはユーザー・グループを選択して「削除」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

デフォルトのマップ・アクセス権の上書き

▶ デフォルトのマップ・アクセス権を上書きするには:

1. 「アクセス権の編集」でユーザーまたはグループを選択して「編集」をクリックします。

70ページのアクセス権の管理を参照してください。

2. 「<userName /groupName>のアクセス権の編集」で、アクセス権オプションを選択します。

- なし

アクセス権はありません。

- チェックアウト/マップの実行

ユーザーまたはユーザー・グループがマップをチェックアウトして使用できるようにします。

3. オプション: 「マップの削除」をクリックして、ユーザーまたはグループがマップを削除できるようにします。
4. 「OK」をクリックします。

マップの所有者の変更

▶ マップの所有者を変更するには:

1. 「マップ」を選択します。
2. 「マップ」からマップを選択します。
3. 「編集」、次に「所有者」を選択します。
4. 「所有者の変更」でユーザーを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

8

ロック、ログ、トランザクションおよびセッションの管理

この項の内容:

エンティティのロックの管理	73
トランザクションの管理	73
ログの管理	74
ユーザー・セッションの管理	74
イベント・ログの管理	74

ロック、ログ、トランザクションおよびユーザー・セッションの管理など、毎日のメンテナンスやトラブルシューティングを実行するには、管理者を使用します。

エンティティのロックの管理

ユーザーがエンティティをチェックアウトすると、Strategic Financeはエンティティをロックしてデータを保護します。エンティティのロックを監視および解除するには、「ロック」タブを使用します。

▶ エンティティ・ロックを表示および解除するには:

1. 管理者で「ロック」を選択します。

エンティティを使用しているユーザーのIDおよびドメインは、エンティティ名、エンティティ・バージョン番号、エンティティのチェックアウト時間とともに表示されます

2. エンティティのロックを解除するには、ロックを選択し、「ロック」、「解除」の順に選択します。

トランザクションの管理

「トランザクション」タブでは、成功したトランザクションを特定したり、失敗したトランザクションを再実行(失敗したECMプロセスを再実行)します

▶ トランザクションを管理するには:

1. 管理者で「トランザクション」を選択します。

トランザクションのタイプや状態が表示されます(アップグレード後に実行されたエンティティの変換など)。

2. 任意のアクションを行います:

- タイプでソートするには、「トランザクション・タイプ」でタイプを選択します。
- 状態でソートするには、「トランザクションの状態」で状態を選択します。

- ログを表示するには、トランザクションを選択し、ログの表示をクリックします。74ページのログの管理を参照してください。
- ログを削除するには、そのログを選択して「削除」をクリックします。
- 失敗したトランザクションを再実行するには、トランザクションを選択して「再実行」をクリックします。

ログの管理

「ログ」タブを使用して、次のトランザクションおよびタスクに関する、トラブルシューティング用トランザクション詳細を表示します：

- エンティティの変換
- エンティティ変更管理のアクション
- データベースのエクスポート
- バッチのインポートとエクスポート
- アーカイブの修理と削除

▶ ログを使用するには：

1. 管理者から「ログ」を選択します。
2. ログを選択して、次のいずれかのアクションを実行します：
 - 取得するには、「ログ」、「取得」の順に選択します。
 - 取得して削除するには、「ログ」、「取得および削除」の順に選択します。
 - ログを.txtファイルとして保存するには、「名前を付けて保存」をクリックします。

ユーザー・セッションの管理

「セッション」タブを使用して、ユーザーがStrategic Financeを使用している時間を確認できます。ユーザーがStrategic Financeを正しく終了していない場合や、システムがフリーズしている場合は、セッションを破棄してリソースを解放します。

▶ ユーザー・セッションを管理するには：

1. 管理者で「セッション」を選択します。
2. セッションを削除するには、セッションを選択して、「セッション」、「破棄」の順に選択します。

イベント・ログの管理

「イベント・ログ」タブを使用して、Strategic Financeの毎日の使用状況を追跡して、そのパターンを分析し、トラブルシューティングを実行します。

▶ イベント・ログを管理するには：

1. 管理者で「イベント・ログ」を選択します。
2. オプション：ログを取得するには、ログを選択して、「イベント・ログ」、「取得」の順に選択します。



サーバー・レジストリとデータベース・ディレクトリ構造

この項の内容:

サーバー・レジストリ	75
ディレクトリおよびファイル	77

サーバー・レジストリ



注意

26ページの高度なレジストリ・エントリ設定の定義に明記されていないかぎり、レジストリは編集しないでください。

EPM System Strategic Financeのサービス・レジストリ・パラメータ

Strategic Financeのサービス・レジストリは、次の場所に置かれています。

HKKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\HSFService

表28 Strategic Financeのサービス・レジストリ

パラメータ	タイプ	データ
(Default)	REG_SZ	(値の設定はなし)
ArchiveDirectory	REG_SZ	アーカイブ
ArchiveWarningLevel	REG_SZ	ブロック
CSSConfigFile	REG_SZ	外部認証構成ファイルの絶対ファイルパス
DatabaseConnectionString	REG_SZ	データベースへの接続で使用
DatabaseConnectivityType	REG_SZ	ODBCまたはOLE DB DBの名前
DataSourceConnectionString	REG_SZ	SQLOLEDB
DefaultLogFile	REG_SZ	C:¥HSFData¥Admin¥Default.log
EntityDirectory	REG_SZ	ADB
EntityFileExtension	REG_SZ	ALS
HSFDataDir	REG_SZ	C:¥HSFData

パラメータ	タイプ	データ
LockFileExtension	REG_SZ	LCK
LogDirectory	REG_SZ	C:\¥HSFData
MaxBackgroundWorkers	REG_SZ	3
MaximumIntensiveRequests	REG_SZ	10
MaximumProcessSize	REG_SZ	2048000
MaximumFreeMemory	REG_SZ	51200
MinimumFreeDisk	REG_SIZ	100
MinumumFreeMemory	REG_SIZ	51200
MRUListSize	REG_SZ	5
RootDirectory	REG_SZ	C:\¥HSFData
RPCPort	REG_SZ	Strategic Financeサーバーが接続するポート。 7750
SecurityRegime	REG_SZ	使用不可の場合、または値が表示されない場合は、NTLMがデフォルト。 外部認証の場合の設定値: CSS
StructLockFileExtension	REG_SZ	LKS
StructureFileExtension	REG_SZ	CNS
TemplateExtension	REG_SZ	Alt
TraceLevel	REG_SZ	標準

HSFサービスのShared Servicesレジストリのパラメータ

Shared Services用のStrategic Financeレジストリは、次の場所に置かれています。

HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Hyperion Solutions\HSFService\Authentication

表29 Shared Services用のStrategic Financeレジストリ

名前	タイプ	データ
(Default)	REG_SZ	(値の設定はなし)
ClassPath	REG_EXPAND_SZ	クラスパス
ConnectionInfo	REG_SZ	Shared Servicesへの接続で使用される文字列
HubInstanceID	REG_SZ	Shared Servicesのサーバーの名前を格納する文字列

名前	タイプ	データ
HubURL	REG_SZ	Oracle Hyperion Shared Servicesに接続するためのURL
JamPath	REG_EXPAND_SZ	Java仮想マシンを検索します
JVMPPathまたはJVMKey	REG_EXPAND_SZ	必要なライブラリを検索します

HSFサーバーのレジストリ・パラメータ

Strategic Financeサーバーのレジストリは、次の場所に置かれています。

HKEY_CURRENT_USER\Software\Hyperion Solutions\Strategic Finance\HSFServer

表30 Strategic Financeサーバーのレジストリ

名前	タイプ	データ
(Default)	REG_SZ	(値の設定はなし)
ネットワーク・アドレス	REG_SZ	HSFserver
プロトコル	REG_SZ	ncacn_ip_tcp

ディレクトリおよびファイル

サブトピック

- %EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\
- %EPM_ORACLE_HOME%\Diagnostics\Logs\hsf

%EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\

サブトピック

- Data
- ADB
- ADB¥<Database>
- ¥ADB¥<Database>¥<Entity>
- Admin
- ログ
- %EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\cfg¥DB

Data

このディレクトリには、Strategic Financeデータベース、外部データベース、AdminDoc (ADM)ファイルおよびランザクション・ログ・ファイルが含まれています。

ADB

表31 ADB

サブディレクトリ	次を含む
_delete	削除されたデータベースおよびその内容
<Database>	1つの個別のアクティブなデータベース

ADB¥<Database>

表32 ..ABD¥<Database>

サブディレクトリ	次を含む
delete	削除されたエンティティ。
_ecm	エンティティ変更管理ファイル
<Entity>	対応するエンティティ

¥ADB¥<Database>¥<Entity>

表33 <Database>¥<Entity >

サブディレクトリまたはファイル	次を含む
Archive	アーカイブされたバージョンのエンティティ
Drafts	エンティティの作業中のドラフト
<Entity>.ALS	対応するエンティティ・ファイル
<Entity>.bld	連結構造が作成された後のエンティティの連結データ
<Entity>.STR	エンティティ間の構造関係に関するデータ
<Entity>.LCK	ロック・データ

Admin

次の情報を含むAdminDocファイル:

- ・ ユーザー認証
- ・ データベースとデータベース構成
- ・ エクスポート・ルール・セット
- ・ アーカイブの保持ルール
- ・ アクセス・レコード
- ・ エンティティとユーザー・グループ
- ・ 連結構造名と構成
- ・ サーバーのロギング設定

- サーバーの電子メール制御
- バックアップおよび復元の構成

表34 Admin

ファイル	次を含む
Default.log	一般的なサーバーの使用に関するエラーのログ。
ImportExportRestrictions.xml	RDBMSステージング・データベースのエクスポート・ルールを定義するパラメータ設定。
License.ini	ライセンス情報。
User.adm	AdminDocファイル。
User.tbk	AdminDocファイルのバックアップ

ログ

表35 Logs

サブディレクトリまたはファイル	次を含む
_finished	完了したトランザクション。
_processing	処理中のトランザクション。
Event<date>.log	トランザクションのアクティビティを記録するテキスト・ファイル。
TRANS.TRN	トランザクション・ファイル
TRANSBAK.TRN	トランザクション・ファイルのバックアップ

%EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\cfg\DB

サブトピック

- [Oracle New](#)
- [Oracle Upgrade](#)
- [SQL Server New](#)
- [SQL Server Upgrade](#)

表36 ..\Hyperion\StrategicFinance\<release>\Server\DB

サブディレクトリとファイル	次を含む
Oracle\New	エクスポート・データベースをOracle内に作成するためのスクリプト。
Oracle\Upgrade	Oracle内のAlcar 6.xエクスポート・データベースをStrategic Finance 3.xにアップグレードするためのスクリプト。
DB\SQL Server\New	エクスポート・データベースをSQL Server内に作成するためのスクリプト。
DB\SQL Server\Upgrade	SQL Server内のAlcar 6.xエクスポート・データベースをStrategic Finance 3.xにアップグレードするためのスクリプト。

Oracle¥New

表37 ..¥DB¥Oracle¥New Scripts

ファイル名	説明
step1_tables_views.sql	表、シーケンス、インデックス、キーなどを含む、Strategic Financeデータベースの基本スキーマと補足スキーマを作成します。
step2_defaultscreate.sql	デフォルトおよび代替のプロシージャを作成します。
step3_pkgcreate.sql	Strategic Financeの基本データベース・エクスポートと顧客インタフェース表のパッケージ定義および本文が含まれています。
step4a_optionalauditcreate.sql	デフォルト用および代替用のオプションの監査表を作成します。
step4b_optionalaudittrigger.sql	デフォルト用および代替用のオプションのトリガーを作成します。

Oracle¥Upgrade

このディレクトリには、アップグレード・スクリプトが含まれています。

SQL Server¥New

表38 .SQL Server¥New Scripts

ファイル	説明
step1alt_remove_objects.sql	手順1の代替手順。再インストール用にオブジェクトを除去します。
step1_create_alcar_database.sql	Strategic Finance SQL Serverデータベースをhsfsvrとして作成します。
step2_security.sql	ログインと権限を設定します。デフォルトはhsfsvr_user、パスワードはnullです。
step3_tables_grants.sql	デフォルトで指定される表、インデックス、キーなどを含む、Strategic Financeデータベースの基本スキーマが含まれています。
step4_procs_funcs.sql	ストアド・プロシージャと関数が含まれています。

SQL Server¥Upgrade

このディレクトリには、Oracleステージング・データベースを6.xからStrategic Finance 3.xにアップグレードするためのupgrade30.sqlが含まれています。

%EPM_ORACLE_HOME%¥Diagnostics¥Logs¥hsf

このディレクトリには、イベント・ログおよびエンド・ユーザー・アクションが含まれています。

B

データのエクスポート

この項の内容:

エクスポートについて	81
要件	81
SQL Serverデータベースの設定	81
Oracleデータベースの設定	82
Oracle Application Clustersの使用	83
SQL Serverのエクスポート・データベースの作成	84
エクスポート・データベースのアップグレード	84
Strategic Financeサーバーの構成	85

エクスポートについて

データをエクスポートすると、Strategic Financeデータをリレーショナル・データベース管理システム(RDBMS)に統合できます。これにより、Strategic Financeサーバー上でStrategic Financeエンティティが作成、更新または削除されるたびにステージング(エクスポート)データベース表でトランザクションが作成されます。データベース表は、transaction_id、variable_idおよび期間IDを使用してリンクされます。この項では、OracleおよびSQL Serverのエクスポート・データベースを構成する方法と、エクスポート・データベースをアップグレードする方法について説明します。

要件

データをエクスポートする前に、次のことを確認します:

- データベース管理者がスキーマ、表およびパッケージを作成する権限を付与されていること
- Strategic Financeサーバーにアクセスできること
- ターゲットとなるエクスポート・データベースの名前、ユーザー名およびパスワードがわかっていること

SQL Serverデータベースの設定

SQL Serverを設定するには:

1. 要件を満たします。81ページの要件を参照してください。
2. SQL Serverにサーバーのインスタンスを作成し、そこにターゲット・データベースを作成します。
3. SQL Serverインスタンスにアクセスします。

4. %EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\cfgに移動し、Query Analyzerを使用して次のスクリプトを順に実行し、エクスポート・データベースを作成します:
 - Step1_create_HSF_database - Strategic Finance SQL Serverデータベース(hsfsvr)を作成します
 - Step1alt_remove_objects - オブジェクトを削除します
 - Step2_security - ログイン名および権限を構成します。デフォルトでは、ログイン名はhsfdbuserで、パスワードはpasswordです
 - Step3_tables_grants - 表およびインデックスを含む、Strategic Financeデータベースの基本スキーマが含まれています
 - Step4_procs_funcs - ストアド・プロシージャと関数が含まれています
5. [84ページのSQL Serverのエクスポート・データベースの作成](#)および [85ページの外部データベース接続の構成](#)を参照してください。

Oracleデータベースの設定

Real Application Cluster (RAC)を使用している場合は、[83ページのOracle Application Clustersの使用](#)を参照してください。

Oracleを設定するには:

1. OracleクライアントをStrategic Financeサーバーにインストールします。
2. Oracleサーバーで、サーバー名、データベース・ユーザー名およびデータベース・パスワードを作成します。
3. 作成したユーザー名とパスワードを使用してOracle Service Nameにアクセスし、スキーマを作成します。カスタムのスキーマ名を指定するか、デフォルトの名前をそのまま使用します。
4. Pre_installation.sqlを実行してデータベースを作成し、基本のHSFDBUserを追加します。
5. %EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\cfgから、次のスクリプトを実行します:
 - Step1_tables_views.sql - 表、シーケンス、インデックス、キーを含む、Strategic Financeデータベースの基本スキーマと補足スキーマが含まれています
 - Step2_defaultscreate.sql - デフォルトおよび代替のプロシージャが含まれています。
 - Step3_pkgcreate.sql

Strategic Financeの基本データベース・エクスポートと顧客インタフェース表のパッケージ定義および本文が含まれています。

- Step4a_optionalauditcreate.sql

デフォルト用および代替用のオプションの監査表が含まれています。

- Step4b_optionalaudittrigger

デフォルト用および代替用のオプションのトリガーが含まれています。



注:

最初の2つのスクリプトでは、データベース・スキーマがクリーンであると想定しています。これらのスクリプトはスキーマごとに1回使用します。

6. **HSFDBUser**とパスワードを使用してスキーマにログインします。
7. HSFDBUserのパスワードを変更します。
8. %EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\cfgで、次のスクリプトを順に実行します:
 - Step1_tables_views.sql - 表、シーケンス、インデックス、キーを含む、Strategic Financeデータベースの基本スキーマと補足スキーマが含まれています
 - Step2_defaultscreate.sql - デフォルトおよび代替のプロシージャが含まれています。
 - Step3_pkgcreate.sql

Strategic Financeの基本データベース・エクスポートと顧客インタフェース表のパッケージ定義および本文が含まれています。
 - Step4_optionalauditcreate.sql

デフォルト用および代替用のオプションの監査表が含まれています。
 - Step4a_optionalaudittrigger

デフォルト用および代替用のオプションのトリガーが含まれています。
9. [84ページのSQL Serverのエクスポート・データベースの作成](#)および [85ページの外部データベース接続の構成](#)を参照してください

Oracle Application Clustersの使用

- ▶ RACにOracleデータベースを設定するには:
1. システム・データベース管理者としてOracleにログインします。
 2. 次の属性で表領域を作成します。
 - サイズ(size): 1024m
 - 自動拡張(autoextend): オン
 - 次(next): 256m
 - 最大サイズ(maxsize): 5128m
 - 拡張管理(extent management): ローカル
 3. この表領域を使用してユーザー・スキーマを作成します。スキーマには、Strategic Financeがエクスポート・データベースにアクセスするときに使用するユーザー名とパスワードが含まれています。
 4. このユーザー・スキーマに次の権限を付与します:
 - CREATE PROCEDURE
 - CREATE SESSION
 - CREATE TABLE
 - UNLIMITED TABLESPACE
 - CONNECT
 - RESOURCE
 5. ユーザー・スキーマにログインします。
 6. 次のスクリプトを順に実行します:

- Step1_tables_views.sql - 表、シーケンス、インデックス、キーを含む、Strategic Financeデータベースの基本スキーマと補足スキーマが含まれています
- Step2_defaultspcreate.sql - デフォルトおよび代替のプロシージャが含まれています。
- Step3_pkgcreate.sql

Strategic Financeの基本データベース・エクスポートと顧客インタフェース表のパッケージ定義および本文が含まれています。

- Step4a_optionalauditcreate.sql

デフォルト用および代替用のオプションの監査表が含まれています。

- Step4b_optionalaudittrigger

デフォルト用および代替用のオプションのトリガーが含まれています。

SQL Serverのエクスポート・データベースの作成

SQL Serverのエクスポート・データベースを作成するには:

1. C:\sqlplus HSF/password@HSF0raDBSrvNameを実行します。
2. SQL>scriptname.sqlを実行します。ここで、scriptnameは使用するスクリプトの名前です。
3. %EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\cfgから、次のスクリプトをインストールします:
 - Step1_create_HSF_database - Strategic Finance SQL Serverデータベース(hsfsvr)を作成します
 - Step1alt_remove_objects - オブジェクトを削除します
 - Step2_security - ログイン情報および権限を構成します。デフォルトでは、**hsfdbuser**および**password**です。
 - Step3_tables_grants - 表およびインデックスを含む、Strategic Financeデータベースの基本スキーマが含まれています
 - Step4_procs_funcs - ストアド・プロシージャと関数が含まれています

エクスポート・データベースのアップグレード

以前のリリースからエクスポート・データベースをアップグレードするには:

1. %EPM_ORACLE_HOME%\products\hsf\config\DB\Oracle\Upgradeに移動します。
2. リリースに対応するSQLスクリプトを実行します:

表39 エクスポート・データベースのアップグレード・スクリプト

リリース	スクリプト	アップグレード先
2.9	upgrade30	3.xまたは4.0.x
3.x 4.0	upgrade30の後にupgrade41	<ul style="list-style-type: none"> • 4.1 • 9.2

リリース	スクリプト	アップグレード先
		• 9.3
4.1以上	upgrade95	11.x

Strategic Financeサーバーの構成

エクスポート・データベースに接続するためのStrategic Financeサーバーの構成には、次のタスクが含まれます:

- [85ページの接続の作成](#)
- [85ページの外部データベース接続の構成](#)

接続の作成

▶ 外部接続を設定するには:

1. 管理者を起動します。
2. 「サーバー」、「開く」の順に選択し、サーバーを選択します。
3. 「サーバー」を選択します。
4. 「サーバー」、「外部接続設定」の順に選択します。
5. 「データベース接続の選択」で、データベースに対応するメソッドを選択します。



注:

現在の設定を変更した場合は、Strategic Financeサービスを再起動します。アップグレードする場合は、新しいデータベース接続を参照するよう設定を変更します。

6. 管理者を閉じます。
7. 「コントロール パネル」で、「管理ツール」、「サービス」の順に選択します。
8. 「サービス」ボックスで、「HSFサービス」を選択し、右クリックして「再起動」を選択します。

外部データベース接続の構成

SQL Server接続を使用している場合は、ユーザーが入力する **SQL Server** 用のログイン ID とパスワードを使うオプションを使用する必要があります。

▶ エクスポート・データベースに接続するようStrategic Financeサーバーを構成するには:

1. 管理者を開きます。
2. 「サーバー」、「開く」の順に選択し、サーバーを選択します。
3. 「データベース」または「表示」を選択し、次に「データベース」を選択します。
4. 「データベース」、「外部データベース」の順に選択します。
5. 「HSFデータベース」で、外部データベースに接続するデータベースを選択します。
6. 「接続タイプ」で「エクスポート」を選択します。
7. 「OLEDB データ・ソース」に、データ・ソース名を入力します。
8. 「ユーザーID」に、リレーショナル・データベースへのアクセスで使用するユーザーIDを入力します。

9. 「パスワード」に、スキーマのパスワードを入力します。
10. 「ルール・セット名」に、ルール・セット名を入力します。
11. オプション: 「電子メール・アドレス」に、エクスポートが失敗した場合に通知する個人の電子メール・アドレスをカンマで区切って入力します。
12. エンティティをエクスポートするには、「データベース接続の使用可能」を選択します。
13. 「OK」をクリックします。

接続が作成されてテストされます。



データの移行

この項の内容:

要件	87
物理的な移行の実行	87
エンティティの変換	87

この項では、テスト環境から本番環境へのStrategic Financeデータの移行方法について説明します。

要件

Strategic Financeデータを環境間で移行する前に、次の手順を実行します:

- Strategic Financeのユーザーとグループが作成され、Shared Servicesでプロビジョニングされていることを確認します。
- データを移行するユーザーのアカウントに「管理」、「プロビジョニング・マネージャ」、「上級マネージャ」のセキュリティ役割が割り当てられていることを確認します。
- テスト環境と本番環境が別々のコンピュータ上で管理されていることを確認します。

物理的な移行の実行

1. Strategic Financeをインストールしますが、インストールの最後で「構成」はクリックしないようにします。
2. 開いているStrategic Financeクライアント・アプリケーションをすべて閉じ、移行元ホストでサーバー・サービスを停止します。
3. 製品のデータ・ディレクトリ(C:\¥HSFData)のフル・バックアップを実行します。
4. Strategic Financeデータ・ディレクトリを移行元ホストから移行先ホストへコピーまたは移動します。
5. インストール・プログラムに戻って「構成」をクリックします。インストール・プログラムを閉じていた場合には、「スタート」、「Oracle EPM System」、「Shared Services」、「EPM Systemコンフィグレータ」の順に選択します。
6. 必要な場合には、別のStrategic Financeデータ・ディレクトリを指定して構成を完了します。
7. 「検証」をクリックし、Strategic Financeのコンポーネントが正常に動作していることと、Strategic Financeサーバー・サービスが開始されていることを確認します。

エンティティの変換

Strategic Financeクライアントから、次の手順を実行してエンティティを新しいフォーマットに変換します。

- ・ チェック・アウト
- ・ ACMの使用
- ・ ECMの使用



トラブルシューティング

この項の内容:

11.1.xアプリケーションのバックアップ	89
同じサーバー上の別のデータベースへのエンティティの移動	89
Strategic Finance Serverへのクライアント接続	89
Strategic Financeサービス診断の実行	90

11.1.xアプリケーションのバックアップ

以前のリリースではPKZipを使用してバックアップすることができました。このツールは提供されなくなるため、アプリケーションのバックアップには次のタスクを実行してください。

1. すべてのユーザーがログアウトしていることを確認します。
2. HSFサービスを停止します。
3. **HSFData**ディレクトリをコピーします。
4. HSFサービスを再起動します。

バックアップ手順と復元手順の詳細は、『Enterprise Performance Management Systemバックアップおよびリカバリガイド』を参照してください

同じサーバー上の別のデータベースへのエンティティの移動

同じ物理サーバー上にある別のデータベースにエンティティを転送するには、次の手順を実行します。すべてのエンティティをルートに移行し(1つの構造になっていない場合)、サービスを停止し、ディレクトリを新しいデータベースにコピーまたは移動して、サーバーを再起動します。一連の手順を次に説明します

1. 階層構造になっていない場合、すべてのエンティティをルートに移行します。
2. HSFサービスを停止します。
3. ディレクトリを別のデータベースにコピーします。
4. Oracle Hyperion Strategic Finance Serverを再起動します。
5. 必要なすべてのアクセス・ルールを再設定します。

Strategic Finance Serverへのクライアント接続

通常、サーバーで障害が発生していることは、クライアントがサーバーに接続できなかつたり、クライアントが接続するときにロックされることで明らかになります。サーバーがWindows 2000でサービスとして実行されることにより、監

視および制御が容易になります。サーバーをトラブルシューティングするには、クライアントとサーバー間の接続性を確認します。問題が再発する場合は、次のいずれかの手順を使用します。

▶ 次の手順に従います:

1. Strategic Financeを実行しているサーバーで、「スタート」、「プログラム」、「管理ツール」、「サービス」の順に選択します。
2. Strategic Financeサービスが開始されているかどうか、およびリブート時に自動的に開始されるように設定されているかどうかを確認します。サービスが開始されていない場合は、手動で開始してください。
3. サービスが実行されているが接続できない場合は、サービスを停止して開始します。

Strategic Financeサービス診断の実行

サブトピック

- サービスの起動および再起動
- Windowsタスク・マネージャのサービスの確認
- イベントビューアでのメッセージの表示
- サーバーのメモリー・エラーとエラー・ログ

診断情報を収集して問題のトラブルシューティングを行うには、完全な管理者権限を使用してシステムにログオンします。診断は、サーバー上で直接実行することも、リモート・アクセス・プログラムを使用して実行することもできます。システムをデバッグするためにイベント・ログおよびその他のログを使用します。



注:

トラブルシューティングを行う前に、サービスが実行中であることを確認します。サービスが実行中の場合は、サービスを停止して再起動します。

サービスの起動および再起動

▶ サービスを再起動するには:

1. Windows Serverのデスクトップから、「コントロール パネル」にアクセスして、「管理ツール」、「サービス」の順に選択します。
2. 「Strategic Finance」を右クリックして、「再起動」または「開始」を選択します。

Windowsタスク・マネージャのサービスの確認

▶ Windowsタスク・マネージャでサービスを確認するには、次の手順を行います:

1. キーボードで、**[Ctrl]+[Alt]+[Delete]**キーを押します。
2. **Windows** セキュリティ・ウィンドウで、「タスク マネージャ」をクリックします。
3. 「**Windows** タスク マネージャ」ボックスで、「プロセス」を選択します。
4. **HSFServer.exe**を探します。

次の点について調べてください:

- **HSFServer.exe**がアクティブなプロセスの一覧にない場合は、開始してください。
- **HSFServer.exe**がリストにある場合は、「メモリ使用量」を確認します。使用量が500MBを超えている場合は、メモリー・エラーが発生している可能性があります。サービスを再起動してください。

イベントビューアでのメッセージの表示

▶ 「イベントビューア」を使用してサービスのイベント・メッセージを検索するには:

1. 「コントロール パネル」で、「管理ツール」、「イベント ビューア」の順に選択します。
2. ツリーで、「アプリケーション ログ」を選択します。
3. アプリケーション・ログ・リスト・ボックスで、メッセージのリストをスクロールして、「Oracle Hyperion Strategic Finance」というラベルのエラーを探します。
4. エラー・メッセージを調べて問題を確認します。

メモリー不足、ブレイクポイントc0000005およびオープンできないというエラーは、メモリーの破損を示しています。サービスを再起動してください。

サーバーのメモリー・エラーとエラー・ログ

次のエラーを記録できます:

- ブレイクポイントc0000005でアクセス違反がありました。
- このコマンドを処理するための十分なストレージ・スペースがありません

これらのエラーは、サーバーがエラーから回復していないことを示します。したがって、疑わしいのは、これらのメッセージの後に記録されたエラー・メッセージです。サービスを再起動すると、メモリー・エラーが解決する場合があります。

用語集

アプリケーション	(1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。(2)必要とされる特定の分析、レポート、またはこの両方に対応するために使用される、関連するディメンションおよびディメンション・メンバーのセットです。
安全率	より安全な投資から期待される利回りです(米国の長期国債など)。
株式ベータ	株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が1%変動するのに伴って株の収益が通常1.2%変動するのであれば、その株のベータ値は1.2です。
勘定科目の消去	連結時に連結ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。
勘定科目のブロック	連結ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算連結プロセスで値を受け取りません。
関連勘定科目	メイン勘定科目に関連し、同じメイン勘定科目番号にグループ化される勘定科目。勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同じメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。
計算スクリプト	データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。
計算済勘定科目	変更できない計算式が含まれる勘定科目。これらの式は、勘定科目の整合性を保つために固定されています。たとえば、当期純利益、計算済勘定科目の式は戦略的財務に組み込まれており、過去実績/予測の期間で変更はできません。
限界税率	税引き後の負債コストを計算するために使用される比率です。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税、および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。
サブ勘定科目のナンバリング	不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。
算出ステータス	一部の値または式の計算が変更されたことを示す集計ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再集計する必要があります。
市場リスク割増額	国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。
消去済勘定科目	連結ファイルに表示されない勘定科目です。
ステータス・バー	コマンド、勘定科目、およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示される、画面下部のバーです。
税金の初期残高	Strategic Financeでは、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエントリは、Strategic Financeの最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。

タイトル・バー	Strategic Finance名、ファイル名、およびシナリオ名のバージョン・ボックスが表示されるバーです。
タブ	Strategic Financeで、勘定科目とレポートのナビゲーションを行うことができるビューです。
通貨の上書き	入力期間に対して選択した入力メソッドを上書きして、デフォルトの通貨/項目として該当期間の値を入力できる機能です。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。
ディメンション	ビジネス・データを整理して値の取得や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、ディメンションには関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Yearディメンションは多くの場合四半期、月などの期間の各単位ごとのメンバーが含まれます。
デフォルト通貨単位	データの単位スケール。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して10を入力すると、10,000と解釈されます。
ブロックされた勘定科目	手動で入力する必要があるために連結ファイルの計算に含めない勘定科目です。
別名表	メンバーの代替名を含む表です。
マップ・ファイル	外部データベースとの間でデータの送信や取得を行うための定義を格納するファイル。マップ・ファイルの拡張子は、データ送信用が.mps、データ取得用が.mprとなります。
履歴平均	多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。
連結ファイル(*.cns)	連結プロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用してStrategic Financeファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。連結ファイルを使用して、連結を定義したり変更することも可能です。
連結ファイル(親)	事業部門のすべてのファイルが連結されたファイルです。連結の定義を含みません。
Shared Servicesレジストリ	ほとんどのEPM System製品のEPM Systemのデプロイメント情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を管理する、Shared Servicesレジストリの構成要素です。